

平成25年度 宇都宮市食育推進会議

日 時：平成26年2月24日（月）
13：30～14：30（予定）

場 所：宇都宮市役所14階 大会議室

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 会長・副会長選出

5 議 事

(1) 「第2次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について

- 【議事の趣旨】 計画構成事業の年次進捗状況を報告
- 【意見をいただきたいポイント】 既存事業における各種団体との連携

(2) 平成26年度「食育に関する意識調査」の実施について

- 【議事の趣旨】 平成26年度に実施する意識調査について、調査の対象や内容を検討
- 【意見をいただきたいポイント】 様々な視点から必要な調査項目、選択肢の修正

6 その他

7 閉 会

【配布資料】

- **資料1** 「第2次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について
 - ・ **資料1-1** 事業の進捗状況について
- **資料2** 平成26年度「食育に関する意識調査」の実施について
 - ・ **資料2-1** 調査項目一覧
 - ・ **資料2-2** 平成23年度調査時の調査項目について
 - ・ **資料2-3** 新規の設問について
- **参 考** 第2次宇都宮市食育推進計画概要版・概要版リーフレット

宇都宮市食育推進会議 委員名簿

(任期：平成26年1月4日～平成28年1月3日)

委員種別	No.	氏名	推薦団体等名称, 役職名等
第1号委員 (市議会議員)	1	斉藤 さちこ	宇都宮市議会議員
	2	櫻井 啓一	宇都宮市議会議員
第2号委員 (学識経験者)	3	大森 玲子	宇都宮大学教育学部准教授
	4	金田 晋平	公益財団法人栃木県農業振興公社農政対策部次長
第3号委員 (食育の関係団体を代表する者)	5	福田 哲夫	一般社団法人宇都宮市医師会理事
	6	長谷川 英一	一般社団法人宇都宮市歯科医師会理事
	7	小高 渉	栃木県保育協議会県中央地区保育研究会副会長
	8	岩本 眞砂枝	宇都宮地区幼稚園連合会
	9	福田 順一	宇都宮市小学校長会
	10	杉浦 朋子	栃木県学校栄養士会宇河支部
	11	金田 淳	宇都宮市PTA連合会副会長
	12	細谷 タミ子	宇都宮市食生活改善推進団体連絡協議会会長
	13	金枝 右子	宇都宮市消費者友の会会長
	14	堀内 英夫	栃木県調理師連合会理事長
	15	亀井 實	栃木県生活衛生同業組合協議会宇都宮支部支部長
	16	渡辺 政行	宇都宮商工会議所常務理事
	17	鶴見 充衛	宇都宮農業協同組合営農部長
18	手塚 敏子	宇都宮市農村生活研究グループ協議会書記	
第4号委員 (前各号に掲げる者のほか、市長が適当と認める者)	19	荒川 昭子	公募委員
	20	青木 浩子	公募委員

第2次宇都宮市食育推進計画 【概要版】

第1章 計画の策定について

<p>1 策定の趣旨 市民が生涯にわたり、食育の「実践」を通して、心身の健康と豊かな人間性を育み、人間力の向上を図るための指針として策定するもの</p> <p>2 計画の位置付け ・ 食育基本法第18条に基づき、食育を総合的かつ計画的に推進するために策定する市町村食育推進計画 ・ 第5次宇都宮市総合計画の分野別計画の基本施策「保健・医療サービスの質を高める」の重点事業である食育を推進するための計画</p> <p>3 計画の期間 平成24（2012）年度から平成28（2016）年度までの5か年</p>	<p>4 国・県の動向について</p> <p>【国】第2次食育推進基本計画：「周知」から「実践」へ、重点課題「生涯にわたるライフステージに応じた間断ない食育の推進」「生活習慣病の予防及び改善につながる食育の推進」「家庭における共食を通じた子どもへの食育の推進」</p> <p>【県】とちぎの食育元気プラン（第2期）：基本理念「ライフステージに応じた食育の推進」、ライフステージや生活シーンごとに応じた食育の実践</p>
---	--

第2章 食育の現状と課題

<p>1 食育をめぐる本市の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢社会の進展（老年人口割合の増加 H22 19.7%）⇒ 高齢者が元気でつらつとした生活が送れるよう、食育の視点からも、口腔機能の維持・向上や低栄養予防などの取組が必要 単身者世帯や核家族世帯の増加 ⇒ 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）や男女共同参画の視点を踏まえながら、家庭における食育の取組を支援していくことが必要 東日本大震災の発生 ⇒ 被災時や避難時における食料の確保や健康・栄養管理の問題など、食の重要性の再認識 食品の安全性に対する不安の高まり ⇒ 食中毒による死亡事故の発生や食品中の放射性物質の問題などによる不安の高まり <p>2 意識調査結果から見る食育の現状と課題 【食育に関する意識調査】 ※計画策定時（平成18年度）と計画最終年度（平成23年度）に実施</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>■対象 ①一般 ②中学・高校生 ③幼児・小学生の保護者</td> <td>■有効回収数 ①1,964 ②1,596 ③1,701</td> <td>■内容 食習慣や生活習慣，意識を把握するもの</td> </tr> </table> <p>(1) 食育の実践について ○ 「食育」の認知度は向上しているが、関心度や実践度は停滞している。 ⇒ 食育の「実践」に結び付けていくための取組が重要</p> <p>(2) 望ましい食習慣について ○ 20代の朝ごはんを欠食する人の割合（42.2%）が依然として大きい状況にある。欠食理由として、「食欲がわからない」「朝食を食べるより寝ていたい」と回答した人の割合が大きい。 ⇒ 朝ごはんの欠食を改善するための取組が重要 ○ 依然として、朝ごはんを欠食する子どもが、幼児（6.2%）・小学6年生（4.2%）、中学3年生（6.7%）などのようにみられる。また、高校生の欠食率（14.8%）も高い。 ○ 朝食または夕食を毎日家族と一緒に食べる幼児・小学生の割合は90.3%。 ○ 箸を正しく持っている幼児・小学生の割合は58.8%で減少している。 ⇒ 家族で一緒に食卓を囲む「共食」を推進するための取組が重要 ○ 家族のふれあいを通して、食べることの楽しさを知り、食に関するマナーや感謝の気持ちを身に付けることが大切 ○ 食事をする際、あまり噛んでいない人の割合が大きい。 ⇒ 歯の健康にも関心を持ち、よく噛んで食べることや歯磨きの習慣を定着させるための取組が重要 ○ 健全な食生活の実践や、食事を美味しく楽しく食べるには、口腔機能の発達・向上が大切</p> <p>(3) 肥満ややせについて ○ 肥満の人の割合は、20代～60代男性は26.7%、40代～60代女性は15.4%で、性別に比較すると、男性の肥満の割合が大きい傾向がある。 ⇒ 生活習慣病のリスクが高まる青年期からの肥満を改善するための取組が重要 ○ 20代女性のやせの人の割合は17.2%で改善しているが、国や県の調査結果から、若い世代の女性の過度な痩身傾向が指摘されている。</p> <p>(4) メタボリックシンドロームや生活習慣病の予防や改善について ○ 食事バランスガイドを参考にしている人の割合は増加している。 ⇒ 栄養バランスのとれた食事の実践など、メタボリックシンドロームや生活習慣病予防や症状の改善のための取組が重要 ○ メタボリックシンドロームの認知度は96.4%で向上しているが、一方で、継続的に予防や改善のための行動を実践している人の割合は24.4%に止まっている。</p> <p>(5) 農や環境への理解について ○ できる限り地場産農産物を購入している人の割合は41.8% ○ 食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合は91.3% ⇒ 食の大切さや自然の恵みを知り、食への感謝の気持ちを持ち、地産地消や環境に配慮した食生活を実践することが重要</p> <p>(6) 食文化への理解について ○ 伝統料理や郷土料理に関心がある人の割合は64.7% ⇒ 食の大切さや自然の恵みを知り、食への感謝の気持ちを持ち、地産地消や環境に配慮した食生活を実践することが重要</p> <p>(7) 食の安全・安心への理解について ○ 食品の安全性に対して不安を感じている人の割合は83.5% ⇒ 食品の安全性に関する正しい知識を普及啓発するための取組が重要</p> <p>3 食育のより一層の「実践」に向けて 食育の「実践」は、市民1人1人の食生活に直接関わる取組であることから、家庭における取組を中心としながら、食育に関わる多様な取組主体（保育園・幼稚園、学校、地域団体、生産者・事業者等）の連携を強化し、地域社会全体で市民が食育を実践しやすい環境づくりを進めていくことが必要</p>	■対象 ①一般 ②中学・高校生 ③幼児・小学生の保護者	■有効回収数 ①1,964 ②1,596 ③1,701	■内容 食習慣や生活習慣，意識を把握するもの	<p>【参考】第1次計画（平成19年度～平成23年度）目標の達成状況</p> <p>I 家庭における食育の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>H18</th> <th>H23</th> <th>目標値</th> <th>現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 食育に関心がある市民の割合</td> <td>80.9%</td> <td>79.7%</td> <td>90%以上</td> <td>ほぼ横ばい</td> </tr> <tr> <td>目標2 朝食を欠食する人の割合(20歳代)</td> <td>35.6%</td> <td>42.2%</td> <td>15%以下</td> <td>悪化</td> </tr> <tr> <td>目標3 朝食を欠食する人の割合(30歳代)</td> <td>25.1%</td> <td>23.3%</td> <td>15%以下</td> <td>ほぼ横ばい</td> </tr> <tr> <td>目標4 肥満の人の割合(20～60歳代 男性)</td> <td>33.8%</td> <td>26.7%</td> <td>17%以下</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>目標5 肥満の人の割合(40～60歳代 男性)</td> <td>21.1%</td> <td>15.4%</td> <td>17%以下</td> <td>達成</td> </tr> <tr> <td>目標6 やせの人の割合(20歳代 女性)</td> <td>18.4%</td> <td>17.2%</td> <td>18%以下</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table> <p>II 保育園、幼稚園、学校における食育の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>H18</th> <th>H23</th> <th>目標値</th> <th>現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標7 朝食を欠食する人の割合(幼児)</td> <td>4.4%</td> <td>6.2%</td> <td>0%</td> <td>ほぼ横ばい</td> </tr> <tr> <td>目標8 朝食を欠食する人の割合(小学生)</td> <td>3.3%</td> <td>4.6%</td> <td>0%</td> <td>ほぼ横ばい</td> </tr> <tr> <td>目標9 朝食を欠食する人の割合(中学生)</td> <td>13.0%</td> <td>6.0%</td> <td>0%</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>目標10 小学生の肥満児の割合</td> <td>7.2%</td> <td>4.8%</td> <td>7%以下</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table> <p>III 家庭における食育の推進</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>H18</th> <th>H23</th> <th>目標値</th> <th>現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標11 食事バランスガイドを参考にしている食生活を送っている市民の割合</td> <td>14.7%</td> <td>36.2%</td> <td>60%以上</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>目標12 メタボリックシンドロームを認知している市民の割合</td> <td>33.0%</td> <td>96.4%</td> <td>80%以上</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table> <p>IV 農とのふれあい、地産地消の推進、環境との調和</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>H18</th> <th>H23</th> <th>目標値</th> <th>現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標13 量販店における地場産コーナーの設置数</td> <td>3か所</td> <td>15か所</td> <td>8か所</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table> <p>V 食文化の継承と振興</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標項目</th> <th>H18</th> <th>H23</th> <th>目標値</th> <th>現状</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標14 伝統食・郷土食の学校給食への導入数</td> <td>8回</td> <td>11回</td> <td>13回</td> <td>改善</td> </tr> <tr> <td>目標15 伝統食講座としての料理教室開催数</td> <td>0回</td> <td>12回</td> <td>5回</td> <td>達成</td> </tr> </tbody> </table>	目標項目	H18	H23	目標値	現状	目標1 食育に関心がある市民の割合	80.9%	79.7%	90%以上	ほぼ横ばい	目標2 朝食を欠食する人の割合(20歳代)	35.6%	42.2%	15%以下	悪化	目標3 朝食を欠食する人の割合(30歳代)	25.1%	23.3%	15%以下	ほぼ横ばい	目標4 肥満の人の割合(20～60歳代 男性)	33.8%	26.7%	17%以下	改善	目標5 肥満の人の割合(40～60歳代 男性)	21.1%	15.4%	17%以下	達成	目標6 やせの人の割合(20歳代 女性)	18.4%	17.2%	18%以下	達成	目標項目	H18	H23	目標値	現状	目標7 朝食を欠食する人の割合(幼児)	4.4%	6.2%	0%	ほぼ横ばい	目標8 朝食を欠食する人の割合(小学生)	3.3%	4.6%	0%	ほぼ横ばい	目標9 朝食を欠食する人の割合(中学生)	13.0%	6.0%	0%	改善	目標10 小学生の肥満児の割合	7.2%	4.8%	7%以下	達成	目標項目	H18	H23	目標値	現状	目標11 食事バランスガイドを参考にしている食生活を送っている市民の割合	14.7%	36.2%	60%以上	改善	目標12 メタボリックシンドロームを認知している市民の割合	33.0%	96.4%	80%以上	達成	目標項目	H18	H23	目標値	現状	目標13 量販店における地場産コーナーの設置数	3か所	15か所	8か所	達成	目標項目	H18	H23	目標値	現状	目標14 伝統食・郷土食の学校給食への導入数	8回	11回	13回	改善	目標15 伝統食講座としての料理教室開催数	0回	12回	5回	達成
■対象 ①一般 ②中学・高校生 ③幼児・小学生の保護者	■有効回収数 ①1,964 ②1,596 ③1,701	■内容 食習慣や生活習慣，意識を把握するもの																																																																																																						
目標項目	H18	H23	目標値	現状																																																																																																				
目標1 食育に関心がある市民の割合	80.9%	79.7%	90%以上	ほぼ横ばい																																																																																																				
目標2 朝食を欠食する人の割合(20歳代)	35.6%	42.2%	15%以下	悪化																																																																																																				
目標3 朝食を欠食する人の割合(30歳代)	25.1%	23.3%	15%以下	ほぼ横ばい																																																																																																				
目標4 肥満の人の割合(20～60歳代 男性)	33.8%	26.7%	17%以下	改善																																																																																																				
目標5 肥満の人の割合(40～60歳代 男性)	21.1%	15.4%	17%以下	達成																																																																																																				
目標6 やせの人の割合(20歳代 女性)	18.4%	17.2%	18%以下	達成																																																																																																				
目標項目	H18	H23	目標値	現状																																																																																																				
目標7 朝食を欠食する人の割合(幼児)	4.4%	6.2%	0%	ほぼ横ばい																																																																																																				
目標8 朝食を欠食する人の割合(小学生)	3.3%	4.6%	0%	ほぼ横ばい																																																																																																				
目標9 朝食を欠食する人の割合(中学生)	13.0%	6.0%	0%	改善																																																																																																				
目標10 小学生の肥満児の割合	7.2%	4.8%	7%以下	達成																																																																																																				
目標項目	H18	H23	目標値	現状																																																																																																				
目標11 食事バランスガイドを参考にしている食生活を送っている市民の割合	14.7%	36.2%	60%以上	改善																																																																																																				
目標12 メタボリックシンドロームを認知している市民の割合	33.0%	96.4%	80%以上	達成																																																																																																				
目標項目	H18	H23	目標値	現状																																																																																																				
目標13 量販店における地場産コーナーの設置数	3か所	15か所	8か所	達成																																																																																																				
目標項目	H18	H23	目標値	現状																																																																																																				
目標14 伝統食・郷土食の学校給食への導入数	8回	11回	13回	改善																																																																																																				
目標15 伝統食講座としての料理教室開催数	0回	12回	5回	達成																																																																																																				

第3章 基本方針（基本理念・基本目標）

■基本理念 食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康と豊かな人間性を育み、人間力の向上を図る。

■基本目標（市民の目指すべき姿） ※ ●実践テーマ：具体的な取組内容を示すもの ◎実践目標：基本目標の達成指標となるもの ※数値の目標年度は平成28年度（【 】内の数値は平成23年度の現況値）

基本目標1 毎日きちんと朝ごはんを食べます

●生活リズムを整えて、毎日朝ごはんを食べます

◎1 朝ごはんを毎日食べる人の割合（幼児）100%【93.8%】／（小学6年生）100%【95.8%】／（中学3年生）100%【93.3%】
（高校生）100%【85.2%】／（20代）85.0%以上【57.8%】／（30代）85.0%以上【76.7%】

基本目標2 バランスのとれた食事を楽しく食べます

●健康を維持するため、適量で栄養バランスのとれた食事を心がけ、適正体重を維持します
●メタボリックシンドロームの予防や改善のための行動をします
●家族との食事を通して、食の楽しさを知ります
●口腔機能の発達、維持のため、よく噛んで食べます

◎2 肥満の人の割合（20代～60代 男性）17.0%以下【26.7%】／（40代～60代 女性）減らす【15.4%】
◎3 食事バランスガイド等を参考に食生活を実践する人の割合 60.0%以上【36.2%】
◎4 メタボリックシンドロームの予防や改善のための行動を実践している人の割合 50.0%以上【24.4%】
◎5 朝食または夕食を毎日家族と一緒に食べる幼児・小学生の割合 100%【90.3%】
◎6 よく噛んで食べる人の割合 80.0%以上【32.0%】

基本目標3 地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます

●農業や地場農産物への関心を持ちます
●食べ残しや作りすぎに配慮し、食品の廃棄を減らします

◎7 地場農産物をできる限り購入している人の割合 50.0%以上【41.8%】
◎8 食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合 100%【91.3%】

基本目標4 食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます

●様々な体験を通して、食への感謝の気持ちや基本的なマナーを身につけます
●食べることや調理することを通して、郷土料理や伝統料理への関心を持ちます
●食品の安全性に関する正しい知識を持ちます

◎9 食育に関心がある人の割合 90.0%以上【79.7%】
◎10 食事マナーに関心がある人の割合（小学6年生）100%【81.2%】／（中学3年生）100%【71.5%】
◎11 郷土料理や伝統料理に関心がある人の割合 75.0%以上【64.7%】
◎12 食品の安全性に対して不安を感じている人の割合 50.0%以下【83.5%】

実践目標（成果指標）

⇒ 議事 (2)

第4章 施策の展開（6つの基本施策）

基本施策1 家庭における食育の推進 [基本目標1・2・3・4]

- (1) 望ましい食習慣の定着
- (2) 子どもや妊産婦を対象とした食育
- (3) 食への感謝の気持ちの育成
- (4) 食育を通じた健康づくり

【重点事業】
・朝食の重要性の普及啓発の推進
・共食の推進

構成事業（基本施策）

⇒ 議事 (1)

基本施策2 保育園、幼稚園、学校における食育の推進 [基本目標1・2・3・4]

- (1) 給食を通じた食育の推進
- (2) 保護者の意識啓発を通じた食育の推進
- (3) 各教科等を通じた食育の推進
- (4) 高等学校等における食育支援

【重点事業】
・食事マナー指導の実施 ・お弁当の日の実施
・高校生を対象とした意識啓発の実施

基本施策3 地域における食育の推進 [基本目標1・2・3・4]

- (1) 食生活改善のための支援
- (2) 生活習慣病予防の推進
- (3) 専門知識を有する人材の育成・資質向上
- (4) 関連事業者等との連携や協働

【重点事業】
・食育出前講座の実施 ・食育情報コーナーの設置 ・食育教室の実施
・ヘルシーメニューの開発・普及 ・健康づくり栄養教室の実施
・宮っこ食育応援団事業の拡充 ・学校における地域や企業と連携した食育の推進

基本施策4 農や環境への理解を通じた食育の推進 [基本目標3]

- (1) 消費者と生産者との相互理解の促進
- (2) 地産地消の推進
- (3) 環境との調和

【重点事業】
・うつつのみやアグリファンクラブ事業の推進 ・地産地消推進店認定制度の推進
・もったいない生ごみ減量事業の推進

基本施策5 食文化への理解を通じた食育の推進 [基本目標4]

- (1) 食文化に関する理解の促進
- (2) 食文化の継承

【重点事業】
・郷土料理講習会の開催

基本施策6 食の安全・安心への理解を通じた食育の推進 [基本目標4]

- (1) 食品の安全性に関する理解の促進
- (2) 食品事業者等に対する衛生指導

【重点事業】
・リスクコミュニケーションの推進

※ 重点事業については、基本目標の達成及び取組主体の連携強化に、特に資する事業とする。

第5章 ライフステージに応じた食育の実践のための行動指針（実践の促進）

【乳幼児期】～望ましい食習慣や生活リズムの基礎を築く時期～

※ 乳幼児期については、保護者と子どもが取り組む内容とし、●は、特に保護者が取り組む内容を示す。
● 欠食をなくし、規則正しい生活リズムの基礎を身につけるようにします。
● いろいろな食べ物を体験することで、素材や味などへの好奇心を育むとともに、うす味で何でも食べられる味覚を育てます。
● 家族との食事を通して、食べることの楽しさを知るようにします。
・ 食事のあいさつをきちんとし、箸を正しく使えるよう練習するようにします。

【小学校期】～食の大切さを学び、望ましい食習慣や生活リズムを定着させる時期～

・ いろいろな食べ物を味わうことで味覚を育て、野菜などの好き嫌いを減らします。
・ 栽培・調理などの体験活動や生産者との交流等を通して、農業や地場農産物に関心を持つとともに、食べ物を無駄にしないことを学びます。
・ 食器の並べ方や箸の持ち方など食事のマナーを学びます

【中学・高校期】～望ましい食習慣や生活リズムを自己管理して維持する時期～

・ 欠食をなくし、1日3回の食事や早寝早起きを心がけ、規則正しい生活リズムを身につけます。
・ 食生活の自立を目指し、調理技術や食品を選択する知識を身につけます。
・ 食品廃棄などの環境問題について関心を持ち、食べ残しを減らし、資源ごみの再利用に努めます。

【青年期（18歳～39歳）】～食を楽しみながら、健全な食生活を送り、体力の維持・向上に努める時期～

・ 欠食をなくし、1日3回の食事や十分な睡眠を心がけ、規則正しい生活リズムを維持します。
・ 自分の健康と食生活の関係を理解し、無理なダイエットを行わず、適量で栄養バランスのよい食事をします。
・ 自分と家族の健康を意識した食生活を送ります。

【壮年期（40歳～64歳）】～食を楽しみながら、健全な食生活を送り、健康の維持・増進に努める時期～

・ 塩分や脂肪の過剰摂取に気をつけるとともに、1日5皿の野菜料理を食べることを心がけ、メタボリックシンドロームや生活習慣病を予防します。
・ よく噛んで食べる習慣や歯磨きの習慣を維持するとともに、歯科検診を受け、口腔内の健康管理をします。
・ 地場産の食材や旬の食材を食事に活用するとともに、子どもに伝えます。

【高齢期（65歳以上）】～食を楽しみ、健康の維持・増進に努めながら、食を通して豊かな生活を実現し、知恵を次代に伝える時期～

・ 健康管理に気をつけ、栄養の過剰摂取や低栄養を予防します。
・ あいさつや箸の持ち方などの食事のマナーを実践するとともに、子どもや孫にも教えます。
・ 食文化に関心を持ち、伝統料理や郷土料理を食生活に取り入れるとともに、料理のいわれや調理方法を子どもに伝えます。

第6章 推進体制（取組主体の役割の明確化）

■ 取組主体の役割 ※ 家庭を中心としながら、食育に関わる多様な取組主体（学校、地域団体、生産者等）の連携を強化し、市民が食育を実践しやすい環境づくりを進めていく。

【家庭の役割】 「共食」など家族のふれあいを通し、「絆」を深めながら、家族の心身の健康を考えた健全な食生活の実践

【保育園、幼稚園、学校の役割】 家庭や地域との連携、地域の資源や人材を活用し、様々な機会を捉えた食育の普及啓発

【地域団体の役割】（自治会・ボランティア団体等）回覧や地域のイベント等を通じた食育の普及啓発、（保健・福祉・医療関係者）保健指導や栄養指導を通じた市民の健康維持・増進の支援

【生産者・事業者の役割】（生産者・関連団体）農や環境への理解の促進、地産地消の推進（事業者）食品の適正表示、衛生管理の徹底、事業活動を通じた食育の推進、従業員等への健康づくり支援、従業員のワーク・ライフ・バランスの配慮

【行政の役割】 正しい情報や知識の普及啓発、地域社会全体で推進していくため取組主体の連携強化、市民の生涯にわたった健全な食生活の実践の支援

■ 推進体制 ・（附属機関）食育推進会議、（庁内）食育推進検討委員会

■ 計画の進行管理 ・ 計画中間年度（平成26年度）と最終年度（平成28年度）に意識調査を実施し、計画の評価を実施する。

「第 2 次宇都宮市食育推進計画」構成事業の年次進捗状況について

◎ 趣 旨

本計画の目標達成に向け、より実効性の高い計画とするため、計画構成事業の活動指標により、年次進捗状況を把握し、取組の方向性について整理するもの

1 計画構成事業について（別紙：計画概要版・資料 1-1「事業の進捗状況について」参照）

本計画においては、計画を構成する 63 事業について、年次進捗状況を事業ごとに活動指標と実績から把握し、必要に応じて見直しを行う進行管理を行うこととしている。

また、63 事業のうち 17 事業を重点事業（基本目標の達成や取組主体の連携強化に特に資する事業）として位置付けている。

〔計画の体系〕

基本理念

食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康と豊かな人間性を育み、人間力の向上を図る。

基本目標 1：毎日きちんと朝ごはんを食べます。

基本目標 2：バランスのとれた食事を楽しく食べます。

基本目標 3：地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます。

基本目標 4：食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます。

6 つ の 基 本 施 策

	家庭における食育の推進	幼稚園、保育園、学校における食育の推進	地域における食育の推進	農や環境への理解を通じた食育の推進	食文化への理解を通じた食育の推進	食の安全・安心への理解を通じた食育の推進	合 計
事業数	16	13	16	8	5	5	63
重 点	2	3	7	3	1	1	17

〔実践目標一覧〕

目標値の設定に当たっては、国や県の上位計画、市の他計画との整合性を図りながら設定
〔現状値〕：平成23年度(第2次計画策定時)に把握した値 〔目標値〕：平成28年度の目標値

◎ 基本目標1

実践目標1 朝ごはんを毎日食べる人の割合

〔現状値〕	幼児	93.8%	〔目標値〕	幼児	100%
	小学6年生	95.8%		小学6年生	100%
	中学3年生	93.3%		中学3年生	100%
	高校生	85.2%		高校生	100%
	20代	57.8%		20代	85.0%以上
	30代	76.7%		30代	85.0%以上

◎ 基本目標2

実践目標2 肥満の人の割合

〔現状値〕	20～60代男性	26.7%	〔目標値〕	20～60代男性	17.0%以下
	40～60代女性	15.4%		40～60代女性	減らす

実践目標3 食事バランスガイド等を参考に食生活を実践する人の割合

〔現状値〕	36.2%	〔目標値〕	60.0%以上
-------	-------	-------	---------

実践目標4 メタボリックシンドロームの予防や改善のための行動を実践している人の割合

〔現状値〕	24.4%	〔目標値〕	50.0%以上
-------	-------	-------	---------

実践目標5 朝食または夕食を毎日家族と一緒に食べる幼児・小学生の割合

〔現状値〕	90.3%	〔目標値〕	100%
-------	-------	-------	------

実践目標6 よく噛んで食べる人の割合

〔現状値〕	32.0%	〔目標値〕	80.0%以上
-------	-------	-------	---------

◎ 基本目標3

実践目標7 地場農産物をできる限り購入している人の割合

〔現状値〕	41.8%	〔目標値〕	50.0%以上
-------	-------	-------	---------

実践目標8 食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合

〔現状値〕	91.3%	〔目標値〕	100%
-------	-------	-------	------

◎ 基本目標4

実践目標9 食育に関心がある人の割合

〔現状値〕	79.7%	〔目標値〕	90.0%以上
-------	-------	-------	---------

実践目標10 食事マナーに関心がある人の割合

〔現状値〕	小学6年生	81.2%	〔目標値〕	小学6年生	100%
	中学3年生	71.5%		中学3年生	100%

実践目標11 郷土料理や伝統料理に関心がある人の割合

〔現状値〕	64.7%	〔目標値〕	75.0%以上
-------	-------	-------	---------

実践目標12 食品の安全性に対して不安を感じている人の割合

〔現状値〕	83.5%	〔目標値〕	50.0%以下
-------	-------	-------	---------

2 前年度（平成24年度）実績について（別紙 **資料1-1** 「事業の進捗状況について」参照）

(1) 平成24年度の年次目標に対する進捗状況について

ア 事業全体（63事業）

構成事業63事業のうち、56事業が平成24年度の年次目標に対して、〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。

【事業全体の進捗状況】

評 価	事業数	割 合
A 達成している（進捗率90%以上）	45	71.4%
B 概ね達成している（進捗率70~90%未満）	11	17.5%
C 達成していない（進捗率70%未満）	7	11.1%

イ 重点事業（17事業）※**資料1-1**の「◎」の事業

重点事業17事業のうち、16事業が平成24年度の年次目標に対して、〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。

【重点事業の進捗状況】

評 価	事業数	割 合
A 達成している（進捗率90%以上）	13	76.5%
B 概ね達成している（進捗率70~90%未満）	3	17.6%
C 達成していない（進捗率70%未満）	1	5.9%

(2) 施策ごとの平成24年度の年次目標に対する進捗状況及び取組の方向性等について

基本施策ごとに、構成事業の進捗を把握するとともに、重点事業を中心に取組の方向性等を整理するもの。

【施策ごとの構成事業の年次進捗状況】

基本施策	A	B	C	事業数	A・B割合
家庭における食育の推進	16 (2)	0 (0)	0 (0)	16 (2)	100%
幼稚園、保育園、学校における食育の推進	4 (0)	7 (3)	2 (0)	13 (3)	84.6%
地域における食育の推進	12 (6)	2 (0)	2 (1)	16 (7)	87.5%
農や環境への理解を通じた食育の推進	5 (3)	1 (0)	2 (0)	8 (3)	75.0%
食文化への理解を通じた食育の推進	3 (1)	1 (0)	1 (0)	5 (1)	80.0%
食の安全・安心への理解を通じた食育の推進	5 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (1)	100%
全 体	45 (13)	11 (3)	7 (1)	63 (17)	88.3%

※括弧内の数字は重点事業数

ア 家庭における食育の推進

【重点事業】

No.1 ◎ 朝食の重要性の普及啓発の推進

No.7 ◎ 共食の推進

(7) 進捗状況

- ・ 16事業のうち、16事業が〔A 達成している〕となっている。
- ・ 重点事業の朝食の重要性の普及啓発の推進と共食の推進について、活動指標設定事業である食育出前講座の年次目標は、ほぼ達成しているものの、講座申込の内訳では、高校生対象の講座の申込件数が少ない状況にある。

(4) 取組の方向性

- ・ 朝食の重要性の普及啓発については（資料1-1 No.1）、特に朝食の欠食率が高い20歳代など若い世代に対しての周知啓発を強化するとともに、高校生対象の食育出前講座について、受講しやすくなるよう、講座の内容や所要時間の見直しを行う。
- ・ 共食の推進については（資料1-1 No.7）、子どもから高齢者まですべての年代に、親子を対象とした食育出前講座などあらゆる機会を通じて普及啓発を行うとともに、学校への働きかけや特に共食の実施率が低い20歳代など若い世代に対する周知を強化する必要がある。

イ 幼稚園、保育園、学校における食育の推進

【重点事業】

No.17 ◎ 食事マナー指導の実施

No.22 ◎ お弁当の日の実施

No.29 ◎ 高校生を対象とした意識啓発の実施

(7) 進捗状況

- ・ 13事業のうち、11事業が〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。
- ・ 重点事業について、食事マナー指導の実施とお弁当の日の実施は、年次目標を概ね達成しているが、高校生を対象とした意識啓発の実施については、高校生対象の食育出前講座の申込件数が少ない状況にある。

(4) 取組の方向性

- ・ 食事マナー指導や「お弁当の日」の実施については（資料1-1 No.17・22）、年次目標を概ね達成しており、活動指標の実績値も上昇傾向にあるため、引き続き、各学校での食事マナーの指導強化や、保護者へのお弁当の日の取組の周知啓発を図る。
- ・ 高校生を対象とした意識啓発は（資料1-1 No.29）、高校生対象の食育出前講座について、受講しやすくなるよう、講座の内容や所要時間の見直しを行うとともに、図書館など高校生が多く集まる場所での食育の周知啓発を強化する。

ウ 地域における食育の推進

【重点事業】

- No.31 ◎ 食育出前講座の拡充
- No.32 ◎ 食育情報コーナーの設置（保健センター）
- No.34 ◎ 食育教室の実施（保健センター）
- No.35 ◎ ヘルシーメニューの開発・普及
- No.36 ◎ 健康づくり栄養教室の実施（保健センター）
- No.43 ◎ 宮っこ食育応援団事業の拡充
- No.45 ◎ 学校における地域や企業と連携した食育の推進

(7) 進捗状況

- ・ 16事業のうち、14事業が〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。
- ・ 重点事業は年次目標を概ね達成しており、宇都宮大学との「餃子めし」、とちぎのめぐみプロジェクトとの「宮っこ食育応援弁当」など、減塩や肥満防止に配慮したヘルシーメニューを開発した。
- ・ ヘルシーメニューの開発・普及や宮っこ食育応援団事業等、民間団体や企業との連携が有効な事業について、大学など一部の関係者との連携となっている。また、学校における地域や企業と連携した食育の推進は、地域とのつながりの強さにより、進捗に差が見られる。

(4) 取組の方向性

- ・ ヘルシーメニューの開発・普及、宮っこ食育応援団事業の拡充（資料1-1 No.35, No.43）については、今後も企業・民間団体などと連携し、「餃子めし」などの開発した減塩や肥満防止に配慮したヘルシーメニューを家庭食だけでなく、外食や中食においても普及に取り組んでいく。
- ・ 学校における地域や企業と連携した食育の推進については（資料1-1 No.45）、取組の状況が学校によって異なることから、各主体との連携が進むよう、各学校に取組の推進を促す。

エ 農や環境への理解を通じた食育の推進

【重点事業】

- No.46 ◎ うつのみやアグリファンクラブ事業の推進
- No.49 ◎ 地産地消推進店認定制度の推進
- No.52 ◎ もったいない生ごみ減量事業の推進

(7) 進捗状況

- ・ 8事業のうち、6事業が〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。
- ・ 重点事業は、いずれも年次目標を達成しているが、うつのみやアグリファンクラブ事業については情報提供をファンクラブ会員に限定していて、もったいない生ごみ減量事業については賞味・消費期限切れの「もったいない生ごみ」が多く含まれている。

(4) 取組の方向性

- ・ うつのみやアグリファンクラブ事業の推進については（資料1-1 No.46）、ファンクラブ会員に限定していた情報提供方法を見直し、民間情報誌を活用することでより多くの市民に農業や農産物に関する情報提供を行うとともに、会員数の増加を図り、時期に合う情報提供を行う。

- ・ 地産地消推進店認定制度の推進については（資料 1 - 1 No.49），農業の振興と市民の健康で豊かな食生活のため，引き続き，農産物情報提供の強化や地産地消推進店の P R 強化を図る。
- ・ もったいない生ごみ減量事業の推進については（資料 1 - 1 No.52），年次目標を達成しているが，焼却ごみの中には賞味・消費期限切れの「もったいない生ごみ」が多く含まれているため，引き続き，あらゆる機会を通じて，発生抑制に向けた意識向上を図るとともに，単身世帯や若年層などへの周知啓発に重点的に取り組んでいく。

オ 食文化への理解を通じた食育の推進

【重点事業】

No.58 ◎ 郷土料理講習会の開催

(7) 進捗状況

- ・ 5事業のうち，4事業が〔A 達成している〕又は〔B 概ね達成している〕となっている。
- ・ 重点事業は年次目標を達成している。

(4) 取組の方向性

- ・ 郷土料理講習会の開催については（資料 1 - 1 No.58），関係団体と連携し，年度ごとに地区を変えて開催していくこととし，伝統料理の調理法だけでなく，料理に係る年中行事等も学ぶことにより，郷土の食文化についての理解を一層深める。

カ 食の安全・安心への理解を通じた食育の推進

【重点事業】

No.61 ◎ リスクコミュニケーションの推進

(7) 進捗状況

- ・ 5事業のうち，5事業が〔A 達成している〕となっている。
- ・ 重点事業は年次目標を達成している。

(4) 取組の方向性

- ・ リスクコミュニケーションの推進については（資料 1 - 1 No.61），食の安全・安心についての捉え方は，生産者や流通関係者，行政などの知識や立場，経験の違いなどにより，認識が大きく異なることから，消費者や食品業者，行政が相互に理解し，信頼関係が築けるよう，参加しやすい出前講座や自由に意見を述べられる意見交換会を開催し，引き続き，リスクコミュニケーションの推進を図る。

事業の進捗状況について

基本施策 1 家庭における食育の推進 - 1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23 実績値 (策定年度)	H24 実績値 (年次目標)	H24 進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
1	◎ 朝食の重要性の普及啓発の推進	食育出前講座や食に関するイベント等の機会を通して、朝食を食べることへの意識を高めるとともに、新たに設置する食育情報コーナーを活用し、朝食の重要性や手軽に作れる朝食メニューの普及を図る。	食育出前講座参加者数 (人)	952	1,526 (1,600)	A	95.4%	2,000	活動指標に設定している食育出前講座においては、年次目標を概ね達成しているものの、特に朝食の欠食率が高い20歳代や、その直前の年代である高校生対象の講座の申込件数が少ない状況にある。
2	ふれあいのある家庭づくりの推進	ふれあいのある家庭づくり作品コンクール（作文等）の実施や、毎月第3日曜日の「家庭の日」に、家族揃って食事をするなど、家庭における親子のふれあいの大切さの意識を高める。	作品コンクール応募数 (点)	903	1,257 (1,000)	A	125.7%	1,450	ふれあいのある家庭づくり作品コンクールや宮っこフェスタなどのイベントの開催、宮っこ子育て応援ナビなど、様々な機会や手法を活用するとともに、地域、学校、企業などと連携し、「家庭の日」のさらなる周知を図る必要がある。 また、毎月第3日曜日の「家庭の日」に家族揃って食事をするなど、家庭における親子のふれあいの大切さの意識を高めることができるよう、引き続き周知啓発に努める。
3	保健指導や栄養相談を通じた食生活改善	家庭や個人の状況に応じた、食事や栄養に関する指導や助言を実施し、栄養バランスのとれた食生活を実践できるよう支援する。	地区栄養相談・親子の食生活相談実施回数（回）	124	136 (136)	A	100%	136	栄養に関して必要な相談が受けられるよう、市民に相談窓口を周知し、栄養士を配置して専門相談に対応するとともに、離乳食教室、運動サポート相談、健康相談などの事業と連携を図る。
			栄養相談者数（人）	448	464 (-)	-	-	-	
4	男女共同参画に関する講座の実施	ファザーリング講座や男性の家事講座などを開催し、男性の家庭参画を推進することで、家族のふれあいや「共食」を促進する。	講座開催回数（回）	6	4 (3)	A	133.3%	3	男性の家庭参画など男女共同参画意識を周知・啓発していくために、男女共同参画推進センターの講座だけではなく、広く地域へ発信していくことが必要である。 また、男性の家庭参画に関する講座の充実とともに生涯学習センター等と連携し啓発機会の拡大を図る。
			食に関する講座での啓発回数（回）	0	5 (-)	-	-	-	
5	親学の推進	保育園や幼稚園、学校等において、保護者の集まる機会を捉え、食育を交えたテーマの出前講座を実施するとともに、親学と子どもの情報誌「こどもるっくる」等を通して、食育に関する情報提供を実施し、家庭における取組を支援する。	「こどもるっくる」発行部数（部）	67,000	67,000 (67,000)	A	100%	66,000	家庭教育支援に関する様々な情報をより多くの保護者に周知啓発することができるよう、引き続き誌面の充実に努める。
6	各種家庭教育講座の実施	保護者自身の学習や親子のふれあい活動など、子どもの発達年齢に応じて開催する家庭教育講座において、食育に関する講座プログラムを実施し、保護者の食育についての理解を深める。	講座開催数（回）	35	36 (27)	A	133.3%	27	親子のふれあい活動と子育て期に応じた学習機会の充実を図る必要があるため、参加しやすい学習テーマや日程を設定するとともに、参加型学習を積極的に取り入れるなど、講座のさらなる充実を図る。

基本施策 1 家庭における食育の推進－2

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23 実績値 (策定年度)	H24 実績値 (年次目標)	H24 進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
7	◎ 共食の推進	食育だよりや食育パネル展の実施等を通して、食育に関する情報提供を行い、市民の食育に対する関心や理解を深め、食育を実践する力を養うとともに、共食の重要性の普及啓発に取り組みます。	食育出前講座参加者数 (人)	952	1,526 (1,600)	A	95.4%	2,000	活動指標に設定している食育出前講座においては、年次目標を概ね達成しているものの、毎日家族とごはんを食べる人の割合が低い20歳代など若い世代からの申込件数が少ない状況にあるため、子どもから高齢者まで全ての年代に対し、食育出前講座等のさまざまな機会を通して、共食について普及啓発を行うとともに、特に共食の割合が低い年代に対する周知を強化する必要がある。
8	3歳児健康診査における栄養指導の実施	3歳児健康診査時に、保護者を対象に食生活に関する講話を行い、子どもの肥満予防に取り組む。	実施回数(回)	112	112 (112)	A	100%	112	子どもの健康状態の確認や育児相談の場としてのニーズも高い。市医師会等との連携を強化し、受診率の向上と健康診査の充実を図る。また、すこやか訪問事業を通し、未受診の子どもに対する支援体制を検討する。
9	妊産婦や親子を対象とした講座での食育の推進	ママパパ学級や離乳食教室など、妊産婦や親子を対象とした講座の中で、「妊娠中の食生活」「離乳期からの食育」など食に関する情報提供を行い、望ましい食生活の実践を支援する。	講座開催数(回)	62	62 (62)	A	100%	62	妊娠中や乳幼児期に必要な栄養に関する知識の普及啓発に努めるとともに、参加者の利用ニーズに即した実施を図る。
10	流通の理解の促進	「夏休み親子市場見学会」や「大人の市場講座」など、市場内各施設やせりの見学会や講座を開催し、市場の役割や流通の仕組みの理解を深めるとともに、食に関わる人たちの苦勞を知ることを通して、食への感謝の気持ちの育成を図る。	実施回数(回)	5	5 (5)	A	100%	5	円滑な取引業務や品質管理の確保を図るため、市場関係者との連携、「活性化ビジョン」実行計画の検討を踏まえながら、効果的かつ適切な施設の維持整備・修繕を進めていく。
11	在家庭乳幼児及び保護者への啓発	子育てサロン・サークルにおいて、在家庭乳幼児及び保護者を対象とした食育に関する講座や栽培・調理体験を実施し、保護者の食育への関心を高めるとともに、子どもたちの食への感謝の気持ちを育成する。	食育に関する講座や体験への参加親子数(人)	6,030	5,867 (6,000)	A	97.8%	6,000	在家庭乳幼児やその保護者が食育への関心を持ち、積極的に食育活動に取り組めるよう、講座や栽培・調理体験に参加できる機会を設ける。
12	生活習慣病予防事業の推進	健康づくり栄養教室や糖尿病予防事業等を通して、生活習慣病と食生活の関わりについての理解を深め、家庭において、健全な食生活や食事管理が実践できるよう支援する。	試食の提供を通じた食生活改善アドバイス実施人数(人)	—	779 (495)	A	157.4%	1,395	女性の健診日の会場において、試食の提供を通じた食生活改善アドバイスを実施した結果、参加者の約9割が、試食した料理を家庭で作りたいと答えており、家庭での実践に結びつきやすい手法であることがわかったため、引き続き、実施会場等を工夫しながら、試食提供を通じた生活習慣病と食生活の関係について情報提供を行うことで、家庭での実践につなげていく。
13	介護予防教室の実施	「栄養改善」や「口腔機能の向上」等のプログラムを盛り込んだ介護予防教室を実施し、高齢者が健康で食生活が送れるよう支援する。	介護予防教室実施回数(回)	894	888 (900)	A	98.7%	900	高齢者を対象に介護予防のための運動の実技や栄養改善・口腔機能の向上、認知症予防について学ぶ介護予防教室を開催し、介護予防に向けた取組が主体的・継続的に実施されるよう支援する。

基本施策 1 家庭における食育の推進— 3

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23 実績値 (策定年度)	H24 実績値 (年次目標)	H24 進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
14	歯の衛生週間イベントの開催	口腔衛生に関する様々な情報提供や保健指導を実施し、口腔衛生に対する意識を高めるとともに、歯科疾患を予防するため、よく噛んで食べることや歯磨き習慣の定着を図る。	歯と口の健康週間イベント参加者数（人） ※市歯科医師会共催	4,591	4,221 (4,300)	A	98.2%	4,300	平成 22 年度以降、保健センター入館者の減少に伴い、イベント入場者数も減少しているが、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層に来ていただくため、イベント実施内容、実施方法、周知方法の見直しを行う。
15	子どものむし歯予防事業の実施	2歳～小学1年生までを対象としたフッ化物塗布と2歳5か月児歯科健康診査時にブラッシング指導や口腔衛生に関する相談等を実施し、むし歯予防のための正しい知識の普及と歯磨き習慣の定着を図る。	フッ化物塗布事業実施回数（回）	8	68 (68)	A	100%	68	むし歯予防にフッ化物塗布は有効であることから、今後も、フッ化物塗布の必要性を周知し、受診率の向上に努める。 むし歯や口腔内の病気等の予防や早期発見を図り、むし歯のない子どもを増やすため、健診の必要性を周知徹底し、受診率の向上を図る。
			2歳5か月児歯科健康診査実施回数（回）	60					
16	歯の健康教室の実施	歯科医師による講話や歯科衛生士によるブラッシング指導を小学校3年生を対象に全小学校で実施し、よく噛んで食べることや歯磨きの習慣の定着を図る。	実施校数（校）	68	68 (68)	A	100%	68	歯科医師会と連携を図り、歯・口腔内の衛生管理や望ましい間食の取り方、正しいブラッシングの仕方等について指導し、歯・口腔の健康づくりに積極的に取り組む態度を育てる。

基本施策 2 保育園、幼稚園、学校における食育の推進— 1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23 実績値 (策定年度)	H24 実績値 (年次目標)	H24 進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
17	◎ 食事マナー指導の実施	学校給食の時間を活用し、学級担任や栄養士による食事のあいさつや箸の持ち方などの食事指導を実施し、食事マナーやルールの定着を図るとともに、子どもたちの社会性を育む。	食事マナーについて関心がある児童生徒の割合（％）	82.5	85.1 (100)	B	85.1%	100	児童生徒に対するアンケート結果では、数値指標の値が上昇傾向にあることから、事業の成果が出ていると考察できるが、目標値とは未だ乖離があることから、引き続き、各学校での食事マナーの指導を強化していく。
				72.3	76.2 (100)	B	76.2%	100	
18	米飯給食の推進	自校炊飯の拡大や地元米を使用した米飯給食の実施により、生産者への感謝の気持ちを育むとともに、米のおいしさを知ることを通して、日本型食文化への関心を高める。 また、配膳の仕方など食事マナーの指導を実施するとともに、自分にあった量を盛り付けるなど、子どもたちの自己管理能力を育成する。	自校炊飯校数（校） ※ 自校炊飯校を除く。	26	37 (93)	C	39.8%	93	毎年、自校炊飯の整備を進めており、平成27年度には、全校の整備が完了する予定である。
19	食物アレルギーへの対応	保育園や学校において「食物アレルギー対応マニュアル」に基づき、保護者と連携を図りながら、児童や生徒の状況に応じて、可能な限り給食で対応し、食物アレルギーへの理解を深める。	栄養相談実施校の割合（％）	100	100 (100)	A	100%	100	「食物アレルギー対応マニュアル」に基づく対応が各学校で徹底されており、引き続き、アレルギー症状を有する児童生徒の保護者との面談などを通じた、きめ細かな対応を行う。
			食物アレルギー研修への参加園の割合（％）	公立 100 私立 41	公立 100 私立 55 (100)	A C	公立 100% 私立 55%	100	安全・安心な園での生活ができるよう、食物アレルギーを持つ園児に関わる人が、食物アレルギーに対する共通理解と認識を持ち、適切な対応ができるよう努める。

基本施策2 保育園、幼稚園、学校における食育の推進—2

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等	
20	栄養指導の実施	給食の献立を活用した栄養指導を行い、バランスのとれた食事や健康管理についての知識や理解を深める。	好き嫌いをしないで食べている児童生徒の割合(%)	小学 6年生	83.5	83.9 (100)	B	83.9%	100	数値指標の対象学年以外の別の学年でも、成果が上がっているため、学校給食の時間や家庭科等の授業における栄養指導を、引き続き実施する。
				中学 3年生	77.3	77.7 (100)	B	77.7%	100	
21	保育園における望ましい食習慣やマナーの定着	給食を通して、食の大切さを学び、感謝の気持ちの育成に取り組むとともに、食事に関するマナー等が身に付くよう子どもの発達に応じた支援を行う。	食育計画を作成している保育園の割合(%)	公立 100 私立 82	公立 100 私立 94 (100)	A A	公立 100% 私立 94%	100	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、保育計画について評価及び改善に努めるよう指導する。	
22	◎ お弁当の日の実施	お弁当を親子一緒に作る経験を通じて、食事について親子で共に考える機会を創出するとともに、子どもたちの食への関心を高めます。また、お弁当の栄養バランスや献立を考えたり、食材の購入などを通して、自らの健康を考え、管理できる能力の育成を図る。	家の人から食生活について必要な注意やアドバイスをもらっている児童生徒の割合(%)	小学 6年生	86.7	86.6 (100)	B	86.6%	100	「お弁当の日」の取組は、食への関心が高まる機会となっており、数値指標である家庭との連携についても値が上昇傾向にあるが、未だ目標値とは乖離していることから、引き続き、保護者への周知啓発についても力を入れていく。
				中学 3年生	74.0	75.8 (100)	B	75.8%	100	
23	栄養士等による食育講演会の開催	保護者会、学校開放日、親子給食、給食試食会等の機会を活用し、栄養士等による食育をテーマとした講演会を開催し、保護者の食への関心を高める。	講演会実施校数(校)	66	66 (93)	B	71.0%	93	保護者に対する食の関心を高める方策として、引き続き、学校栄養士による講演会の開催校を増やしていくことと併せ、外部講師の活用についても検討していく。	
24	食育だより、献立等による家庭への食育啓発	食育を家庭に浸透させるため、食育だよりや献立等を通して保護者に食に関する取組や食育についての情報を提供し、理解を深める。	月1回以上実施している学校数(校)	93	93 (93)	A	100%	93	周知ツールである「食育だより」や「献立表」の活用は定着してきたことから、今後は、内容の充実を図っていく。	
			月1回以上実施している園の割合(%)	公立 100 私立 79	公立 100 私立 87 (100)	A B	公立 100% 私立 87%	100	家庭に対して、様々な媒体(園だより、献立表、連絡帳)などを通して保育所における子どもの食事の様子や食育の実践活動を伝え、保護者の「食」に対する関心を高めよう指導する。	
25	保育園における調理・食物栽培体験の実施	乳幼児や保護者を対象とした調理や食物栽培等の体験活動の実施を通して、食の大切さや感謝の気持ちの育成を図る。	栽培体験を実施している保育園の割合(%)	公立 100 私立 82	公立 100 私立 92 (100)	A A	公立 100% 私立 92%	100	子どもが自らの感覚や体験を通して自然の恵みとしての商材や調理する人への感謝の気持ちが育つように、食物体験を実する機会を増やしていく。自ら調理し、食べる体験を通して、食欲や主体性が育まれることを踏まえ、子どもが食事づくりに取り組むことができる機会を増やしていく。	
26	保育園・幼稚園における食育出前講座の実施	朝食や生活リズムの大切さを学び、肥満予防や健康な歯の維持を図るため、幼稚園児を持つ保護者を対象に、「望ましい食習慣」や「よく噛んで食べることの大切さ」をテーマとした講座を開催し、食への関心や理解を深める。	食育出前講座の保護者の参加者数(人) ※ 幼稚園、保育園、小学生、中学生の保護者	263	647 (500)	A	129.4%	500	若い世代を通して家庭での食育の実践に結び付けていけるよう、図書館等、若い世代が多く集まる場所での食育の普及啓発の充実を図る。	

基本施策2 保育園、幼稚園、学校における食育の推進—3

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)	最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
27		子どもたちが自らの食生活を見直し、改善する力が身に付くよう、小中学校9年間の系統性を考え、学級活動や各教科の中で、計画的・継続的な指導を実施していくとともに、学校行事の機会を活かし、食に関する体験活動等を実施し、子どもたちの食への関心を高める。	学校栄養士が授業へ参画した学校数（校）	70	80 (93)	B 86.0%	93	児童生徒の身近な存在である学校栄養士による「食に関する授業」は、食育にとって効果的な取組であることから、授業の未実施校への実施指導を行う。
28		食物の生産や収穫体験など、農業体験学習を実施し、栽培の工夫や苦労を知るとともに、収穫の喜びや食のありがたみを学び、農業への関心や食への感謝の気持ちを育成する。	生産者との交流給食を実施している学校数（校）	25	25 (93)	C 26.9%	93	交流給食以外の方法で生産者と児童生徒との交流を図っている学校もあるが、生産者との交流など、農業への関心を高めることが食育において重要であることから、様々な取組を行うよう各学校に働きかける。
29	◎	高校生を対象とした意識啓発の実施	食育出前講座の高校生参加者数（人）	72	105 (150)	B 70.0%	300	高校生をはじめ、20歳代など若い世代では、朝食欠食や過度の痩身志向などの食に関する問題を抱えているが、出前講座の利用が少ない。 高校生が受講しやすいよう講座内容等を見直し、周知を強化するほか、図書館等、高校生が多く集まる場での普及啓発を実施し、家庭での食育の実践に結び付けていけるよう、食育の普及啓発の充実を図る。

基本施策3 地域における食育の推進—1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)	最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
30		高齢者等を対象とした配食サービスを実施し、低栄養を予防するとともに、対象者の体調等に合わせて栄養バランスのとれた食生活が送れるよう支援する。	利用者数（人）	321	285 (450)	C 63.3%	450	虚弱な高齢者等の食生活の改善及び健康の増進を図るため、食の自立の観点から十分なアセスメントと食関連サービスの利用調整を行い、訪問による配食サービスを実施する
31	◎	食育出前講座の拡充	参加者数（人）	952	1,526 (1,600)	B 95.4%	2000	より多くの人に、効果的に食育を推進するためには、出前講座の利用拡大を図る必要がある。市民が食育を体験できる機会を確保し、家庭での食育の実践に結び付けていけるよう、食育の普及啓発の充実を図る。

基本施策3 地域における食育の推進—2

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
32	◎ 食育情報コーナーの設置	市保健センター内に食育に関する情報を集積したコーナーを常設するとともに、栄養士や運動指導員による食事や運動等の相談を実施する。また、情報コーナーを活用し、健診受診者を対象とした減塩料理等の試食の実施や、食育の日（毎月19日）に食生活アドバイスを実施するなど、食生活改善のための意識啓発を図る。	啓発資料配布延数（部）	—	2,900 (2,500)	A	116.0%	4,000	保健センター運動教室利用者が待ち時間に学習の場として活用している。幅広い年齢層に活用していただけるよう、健診コーナー掲示板の活用や、食育に関する動画の放映等、啓発に効果的な場所、媒体を検討する。
33	給食施設指導の実施	給食施設に対して、栄養管理に関する指導を実施し、栄養面に配慮したメニューの提供ができるよう支援する。	巡回指導件数（件）	59	72 (60)	A	120.0%	60	特定給食施設等が利用者に応じた食事の計画、調理及び栄養の評価を行い、改善が図れるよう支援する必要がある、指導計画に基づき効果的に実施していく。
34	◎ 食育教室の実施	幼児や小学生の親子、青年期や壮年期の市民を対象とした調理実習を実施し、健全な食生活の実践を支援する。	参加者数（人）	285	336 (300)	A	112.0%	340	食育推進計画に基づき、各ライフステージの食に関する課題をテーマにして、内容を充実させながら実施していく。 中学生、高校生を対象とした食育のアプローチについて、強化する。
35	◎ ヘルシーメニューの開発・普及	栄養士や生産者等で構成する研究会を設置し、「高血圧症」や「脂質異常症」などの生活習慣病予防するための地場農産物を使った栄養バランスのとれたメニューを開発し、健康づくりや地産地消の推進に取り組む。	開発メニューの試食提供回数（回）	—	8 (8)	A	100.0%	20	塩分の過剰摂取や肥満などがもたらす生活習慣病予防のため、宇都宮大学と共同で、家庭で簡単に作れる塩分量やカロリーに配慮したヘルシーメニュー「餃子めし」などを開発し、女性の健診日の会場等での試食提供により普及してきた。今後、さらなる普及のため、民間団体や企業等と連携するとともに、外食・中食においても、家庭食同様、ヘルシーメニューの普及に取り組んでいくことが課題である。
36	◎ 健康づくり栄養教室の実施	「高血圧予防」や「脂質異常症予防」をテーマとした栄養教室を開催し、食生活改善を通して、メタボリックシンドロームや生活習慣病を予防するための調理方法の習得を支援し、食生活の改善を図る。	参加者数（人）	248	153 (160)	A	96.6%	220	平成24年度以降、生活習慣病の一次予防に重点を置いた内容に見直し、参加者を介して認知度が上昇している。教室の内容を充実させながら実施しており、今後も継続していく。
37	職域における健康づくり支援の実施	企業等を通じて、生活習慣病予防のための食生活や健康に関する情報提供を実施し、従業員等の健康づくりの取組を支援する。	情報提供を提供する機会（回）	4	4 (4)	A	100%	7	今後は、地域・職域連携推進協議会における実施事業に位置づけ、健康情報の内容と提供回数の拡充を図るとともに、情報提供の手法についても見直しを検討していく。
38	地区における健康教育の実施	地区において、生活習慣病予防をテーマとした調理実習などの講座を開催し、健全な食生活の実践を支援する。	栄養・食生活に関する地区の健康教育参加者数（人）	1,000	987 (800)	A	123.4%	800	参加者が全体的に少なく、また固定化している講座もあり、新規参加者の獲得が課題である。 また、参加の少ない20歳代などの若い世代は、就労している可能性が高く、職域への普及啓発も重要である。

基本施策3 地域における食育の推進—3

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
39	糖尿病食事療法教室の実施	栄養士による糖尿病食についての講話や調理の演習、個別相談を通して、糖尿病の予防や改善に取り組みます。	参加者数（人）	66	63 (90)	B	70.0%	90	教室5日間の全日程に参加することが原則であり、参加への躊躇や途中離脱者がみられる。また、現在は講話中心だが、調理実習を希望する意見もある。家庭において実践に結びつけやすくするために開催日程や実施内容を検討して参加しやすい教室づくりをしていく。
40	食育指導者研修会の開催	管理栄養士、栄養士、調理師等に対して研修会を開催し、食育に関する情報提供を行い、資質の向上を図る。	参加者数（人）	62	70 (100)	B	70.0%	100	研修会の定期的な開催を通して、食育に関する正しい知識や新たな情報を提供していることから、指導者の資質向上につながっているため、引き続き、研修内容の工夫を行いながら、研修会を開催していく。
41	学校における指導者研修会の開催	給食主任・栄養教諭・栄養士等に対し、食に関する研修会を実施することにより、食育指導の専門性を高める。	開催数（回）	4	4 (4)	A	100%	4	指導者研修会を定期的開催し、指導の充実につながっているため、引き続き、研修内容の工夫を行いながら、継続して研修を行っていく。
42	健康づくり推進員・食生活改善推進員の養成	健康づくり推進員・食生活改善推進員を養成し、食育や健康づくりの取組を地域の中でリードできる人材の育成を図るとともに、地域に取組を波及させていくため、地域における健康づくり実践活動を支援する。また、食育出前講座を連携して実施することにより、食育指導のノウハウの蓄積を図る。	推進員数（人）	1061	1,119 (1,159)	A	96.5%	1,453	市民健康等意識調査によると健康づくり推進員・食生活改善推進員の認知度が低いことから、推進員の認知度向上を図るため、広報紙への掲載やイベント等、様々な機会でのPRを図る。 健康づくり推進員・食生活改善推進員の高齢化を踏まえ、若い年代（40～64歳）の方にも受講しやすいよう養成講座の内容・回数の見直し等による拡充を図る。
43	◎ 宮っこ食育応援団事業の拡充	宮っこ食育応援団と連携し、毎月19日の「食育の日」などの機会を捉え、講座や工場見学等の食育に関するイベントを実施し、市民への普及啓発を図る。	連携事業実施団体数(件)	0	1 (1)	A	100%	6	宮っこ食育応援団との連携事業（共催での講演会の実施、ヘルシーメニューを普及するための試食提供の場の提供）により、より多くの市民に食育を普及啓発できたことから、引き続き、宮っこ食育応援団との連携を強化し、より一層、効果的に食育を推進していく。
44	食育フェアの開催	学校や地域、食育関係団体などの食育の取組の紹介や食育啓発イベントを開催し、広く市民に食育の普及啓発を図る。	来場者数（人）	40,000	40,000 (40,000)	A	100%	40,000	食育の啓発に効果的な参加型・体験型の催しの充実を図り、さらに「食育の実践」を推進していく。
45	◎ 学校における地域や企業と連携した食育の推進	企業による食育講演会の開催や、生産者や高齢者等との交流給食を実施するなど、家庭や地域団体、事業者等との連携の強化を図りながら食育を推進していくとともに、地域学校園においても、就学前の保育園や幼稚園と連携するなど、地域社会全体での食育の取組を通して子どもたちの人間力を育む。	実施している学校数(校)	0	61 (93)	C	65.6%	93	地域とのつながりが強い学校では取組が進んでいるものの、市中心部を始めとする地域では、取組が遅れている学校もあることから、引き続き、各主体との連携が進むよう、各学校に取組の推進を促していく。

基本施策 4 農や環境への理解を通じた食育の推進—1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23 実績値 (策定年度)	H24 実績値 (年次目標)	H24 進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
46	◎ うつのみやアグリファンクラブ事業の推進	うつのみやアグリファンクラブのPRに取り組むとともに、ファンクラブ情報誌を通じた宇都宮の美味しい農産物に関する情報提供や農業体験等を実施し、農業や地産地消への理解の促進を図る。	会員数（人）	3,577	3,616 (4,000)	A	90.4%	—	ファンクラブ会員への情報提供方法と新規メール会員の獲得に向け、ファンクラブ会員に限定していた情報提供方法を見直し、民間情報誌を活用することでより多くの市民に農業や農産物に関する情報提供を行う。また、新規メール会員の増加を図り、タイムリーな情報提供を行う。
47	中央卸売市場出張市場講座の実施	市場の役割や流通をはじめとした生鮮食料品に関する様々な情報を紹介する説明会（出前講座）を開催し、流通の理解を深める。	開催数（回）	3	4 (6)	C	66.7%	6	円滑な取引業務や品質管理の確保を図るため、市場関係者との連携、「活性化ビジョン」実行計画の検討を踏まえながら、効果的かつ適切な施設の維持整備・修繕を進めていく。
48	農業・農村ふれあい交流事業の推進	ふれあい交流イベントの実施や農業・加工等の体験活動を通して、農に対する理解を深め、都市と農村の交流を促進する。	交流事業参加者数（人）	79,469	90,401 (89,000)	A	101.6%	92,000	都市と農村の交流促進に向け、民間と連携したグリーンツーリズムモニターツアーを実施するとともに、事業内容の充実や、首都圏でのPRを行うことで、交流人口の増加を図る。
49	◎ 地産地消推進店認定制度の推進	地場農産物を販売・使用している量販店・飲食店等を地産地消推進店として認定し、ホームページ等でのPRや、「うつのみや産」表示やコーナーの設置等により、市民に安全・安心な地場農産物が手に入れやすい環境を提供するなど、地場農産物の消費拡大を図る。	推進店認定数（店）	77	84 (90)	A	93.3%	120	消費者が地場農産物を手軽に入手できるよう導入した、地産地消推進店のPR強化と農産物の安全性を担保する生産履歴記帳の取組や残留農薬自主検査実施への誘導に向け、農業生産の振興と市民の健康で快適な食生活を確立するため、農産物情報提供の強化や地産地消推進店のPR強化に努める。
50	学校給食における地産地消の推進	うつのみや菜ハイウェイシステムを活用した給食への地場農産物の使用促進や地元生産者等との交流を通じて、農業への理解や感謝の気持ちを育成する。	宇都宮市産米を使った米飯給食の実施回数 (回/週)	3.2	3.3 (3.26)	A	101.2%	4.0	宇都宮市産米による米飯給食の拡大を通じ、引き続き、児童生徒の地元農業への理解や感謝の気持ちの醸成を図る。
51	廃食用油のリサイクルの推進	一般家庭から排出される廃食用油から、軽油代替燃料であるバイオディーゼル燃料を製造し、ごみ収集車などへの利用を促進する。	廃食用油の回収量（kl）	29	30 (34)	B	88.2%	34	ごみ収集車の燃料として安定的な回収量が確保できている。今後は、市民の資源化意識のさらなる向上及び回収量の拡大に向け、周知啓発の強化や回収拠点の増設などに取り組んでいく。

基本施策4 農や環境への理解を通じた食育の推進—2

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
52	◎ もったいない生ごみ減量事業の推進	「もったいない生ごみ」の発生抑制を図るため、ごみの分別に関する講習会やイベント、子ども向けの環境教育講座等の実施を通して、食べ残しや作りすぎをなくすなど食品廃棄物を減らすための意識啓発を図る。	参加者数（人）	9,162	10,150 (10,000)	A	101.5%	10,000	焼却ごみとして排出される生ごみの中には、賞味・消費期限切れの食品など、「もったいない生ごみ」が多く含まれていることから、引き続き、あらゆる機会を通じて発生抑制に向けた意識向上を図るとともに、単身世帯や若年層などに対する重点的な周知啓発に取り組んでいく。
53	生ごみ堆肥化の推進	生ごみ処理機の利用拡大や自治会単位などでの生ごみの堆肥化を推進し、食品廃棄物の再生利用を推進する。	堆肥化に取り組んでいる世帯数（世帯）	3,072	2,612 (4,050)	C	64.5%	4,050	生ごみ処理機の利用者は減少傾向にあることから、イベント等において周知啓発を強化するとともに、堆肥化に取り組む世帯のさらなる拡大に向け、堆肥の利活用先の確保などの環境整備に取り組んでいく。

基本施策5 食文化への理解を通じた食育の推進—1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
54	ホームページや広報紙等による情報提供	伝統文化ホームページや広報紙、伝統文化ハンドブックなどを通じて、伝統料理や郷土料理に関する情報を提供し、食文化に関する理解を深める。	伝統文化体験事業参加者（人）	700	550 (500)	A	110.0%	500	年次目標は過去の実績の平均値を考慮して設定している。ホームページや広報紙等で、年中行事や伝統食、郷土色を紹介するとともに、郷土料理教室等のイベント開催の情報を提供することにより、食文化に関する関心・理解を深めていく
55	学校給食における伝統料理や郷土料理の提供	学校給食において、郷土料理や伝統料理を献立に取り入れ、それぞれの料理や地元の食材などについての理解を深める。	給食に出る行事食や、郷土料理を知っている児童生徒の割合（%）	83.1	85.0 (100)	B	85.0%	100	学校給食における伝統料理や郷土料理の提供は進んでいることから、引き続き、食への関心を高める指導をしていく。
				82.8	82.1 (100)	B	82.1%	100	
56	宇都宮伝統文化フェスティバルの開催	宇都宮伝統文化フェスティバルにおいて、宇都宮の郷土料理・伝統料理を紹介するなどして、食の大切さを再認識し、郷土の食文化への関心を高める。	来場者数（人）	10,000	14,000 (13,000)	A	107.7%	15,000	イベントの中で、伝統食の紹介や試食体験を行うほか、ミニ料理教室を開催し、伝統食への関心を高めていく
57	宮っ子伝統文化体験教室の開催	学校や地域コミュニティセンターなどで、小・中学生を対象とした伝統料理教室を開催し、伝統料理を作ったり食べたりする経験を通して、食文化への関心や理解を深める。	開催数（回）	5	2 (3)	C	66.7%	3	伝統文化連絡協議会と連携し、「宮っ子伝統文化体験教室」を開催し、小中学校に講師を派遣して、伝統食作りを体験させることで、郷土の食文化への関心・理解を深めていく。
58	◎ 郷土料理講習会の開催	生涯学習センター等と共催し、成人を対象とした伝統料理講習会を開催し、郷土料理や伝統料理の調理方法を学ぶことを通じて、食文化への理解を深めるとともに、食文化の継承に取り組む。	開催数（回）	6	5 (5)	A	100%	5	伝統文化連絡協議会及び各生涯学習センター等と連携し、年度毎に地区を変えて開催していく。調理法だけでなく、料理に係る年中行事等も学ぶことにより、郷土の食文化についての理解を深めていく。

基本施策6 食の安全・安心への理解を通じた食育の推進—1

No.	事業名（「◎」は重点事業）	事業内容	活動指標	H23実績値 (策定年度)	H24実績値 (年次目標)	H24進捗率 (実績÷年次目標)		最終年度(H27) 目標値	事業の現状等
59	ホームページやメール配信等による情報提供	食品に対する正しい知識を普及するため、ホームページや生活衛生安全情報紙等により、食品の身近な問題や食品の表示に関する情報などを提供します。また、不良食品や食中毒等に関する食品危害情報をメールで配信することにより、健康危害の未然防止を図る。	情報紙配布（部）	6,000	6,000 (6,000)	A	100%	6,000	食品に関する不安を解消するためには、消費者自身が食品の安全性について適切に判断できることが必要であることから、消費者が理解しやすく、親しみやすい内容となるよう工夫しながら、継続して実施していく。
60	食品安全フェア等の開催	食品安全フェアや消費者教室を開催し、食品の安全性に関する情報を積極的な提供を通し、正しい知識の普及啓発に取り組むとともに、消費者の食に対する意識など情報の収集に努める。	開催数（回）	2	2 (2)	A	100%	2	家庭での食中毒予防や食品添加物等を正しく理解することは、市民の安心感の醸成につながることから、時宜を得たテーマを選定し、効果的な手法を検討しながら、継続して実施していく。
61	◎ リスクコミュニケーションの推進	食品の安全に関する調査の結果や食品情報を積極的に開示するとともに、消費者を対象とした出前講習会など、食品の安全やリスクについての情報交換等を通して、食品の安全性に対する理解促進を図る。	講習会開催数（回）	59	65 (70)	A	91.4%	70	食の安全・安心についての捉え方は、生産者や流通関係者、行政などの知識や立場、経験の違いなどにより、認識が大きく異なることから、食品の安全やリスク等について、消費者や食品事業者、行政が相互に理解し、信頼関係が築けるよう、参加しやすい出前講座や自由に意見を述べられる意見交換会を開催し、継続してリスクコミュニケーションを推進していく。
62	食品事業者への衛生知識の普及	講習会や研修会を開催し、法令遵守や施設の衛生管理、食品に対する正しい知識の啓発などにより、食品事業者の資質向上を図る。	食品衛生講習会開催数（回）	33	33 (33)	A	100%	33	食品による健康危害の未然防止を図るため、講習会や研修会などを開催することにより、事業者の衛生意識の向上が図られることから、継続して実施していく。
63	監視指導の実施	食品の製造、加工、販売等の過程ごとに、その特性に応じた監視指導や流通食品等の抜き取り検査などを行うことにより、食品衛生上の危害発生を防止する。	監視件数（件）	7,047	7,114 (7,125)	A	99.8%	7,350	収去検査（食品抜き取り検査）や効率的な監視指導などにより、食品の事件事故等の未然防止が図られることから、継続して実施していく。

平成 26 年度「食育に関する意識調査」の実施について

1 調査の目的

平成 26 年度が第 2 次宇都宮市食育推進計画（平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間）の中間年度に当たることから、現行計画の中間評価及び計画内容の見直しに向けての基礎資料とするため、実践目標（成果指標）の達成状況を把握するもの

2 調査設計に当たっての基本的な考え方

第 2 次計画策定時の状況と比較するため、平成 23 年度の第 1 次計画最終評価時に実施した「食育に関する意識調査」※下表参照（以下「前回調査」という。）を基に、次の 2 点の考え方を踏まえ調査を設計する。

【参考】前回調査の概要について

調査区分	成人（18 歳以上）	中学・高校生	幼児・小学生の保護者
調査対象	5,000 人	1,599 人	1,701 人
調査方法	自記式アンケート	自記式アンケート	自記式アンケート
調査票の配布方法	郵送	学校を通じた配布・回収	学校を通じた配布・回収
調査項目	基本属性	性別、年齢、居住区、家族構成、職業、身長、体重	性別、学年、年齢、居住区、家族構成、身長、体重
	主な内容	<ul style="list-style-type: none"> 食育について 食生活・食習慣 メタボリックシンドローム 食の安全・安心 地産地消 食文化・伝統料理・郷土料理 ボランティア活動 	<ul style="list-style-type: none"> 食育について 食生活・食習慣 メタボリックシンドローム 食の安全・安心 地産地消 食文化・伝統料理・郷土料理 生活や体格
調査設問数	46 問	34 問	38 問
有効回答数	1,964	1,596	1,582
有効回収率	39.3%	99.8%	93.0%

(1) 前回調査の結果を踏まえた調査対象者の抽出

前回調査の回収率を踏まえ、3つの調査区分ごとにそれぞれ1,000人以上のサンプル数を回収できる調査対象者を確保する。

【調査の設計】

調査区分	成人（18 歳以上）	中学・高校生	幼児・小学生の保護者
調査対象	3,000 人	1,100 人	1,100 人
抽出方法	性・年齢、居住地区等を考慮した無作為抽出	性・年齢、地区等を考慮した無作為抽出	性・年齢、地区等を考慮した無作為抽出
調査方法	郵送	学校を通じた配布・回収	学校を通じた配布・回収
調査設問数	35 問	17 問	20 問
調査期間	1 か月間程度		
回収見込	1,179 人（回収率 39.3%）	1,097 人（回収率 99.8%）	1,023 人（回収率 93.0%）

(2) 調査項目・設問の選定（別紙 **資料2-1** 参照）

前回調査項目のうち、実践目標を把握する設問を中心に、第2次計画の策定後に必要となった設問を加え、調査項目を次のとおりとする（点線の囲いの中は主な設問）。

ア 計画の実践目標の達成状況を把握する設問（関連の設問を含む。） … **資料2-2**

- ・ 朝食を食べているか（朝食の欠食率の把握）
- ・ 食事をゆっくりとよく噛んで食べているか（よく噛んで食べる人の割合の把握）
- ・ 「食育」に関心があるか（食育への関心度の把握）
- ・ 「食育」という言葉をどの程度知っていたか（「食育」の認知度の把握）
- ・ 自分の食生活に何か問題があると思うか（食生活に対する問題意識の把握）
- ・ 食事の際に気をつけているマナーは何か（食のマナーについての意識を把握）

イ 食育を今後、さらに推進するうえで、課題となる事項を把握する新規の設問 … **資料2-3**

- ・ 食堂、レストランなど飲食店での外食やコンビニやスーパーで購入する弁当・惣菜などの中食をどのくらい利用するか（外食・中食の利用状況を把握）
- ・ 食の安全性について情報や知識を得ようとしているか（食の安全性への取組状況を把握）
- ・ [付問] 地産地の農産物にこだわらない理由は何か（地場農産物に対する意識を把握）

【主な調査内容】

調査項目	考え方	成人 (18歳以上)	中学・高校生	幼児・小学生 の保護者
食育について	市民の食育に対する関心度や実践度などを把握する。	○	○	○
食生活について	朝食の欠食や共食など、食習慣や食生活の実態を把握する。	○	○	○
メタボリックシンドロームについて	メタボリックシンドロームの認知度などを把握する。	○	○	○
食の安全・安心について	食の安全に対する関心度や気をつけていることを把握する。	○	○	○
地産地消について	地産地消に対する関心度や環境への意識を把握する。	○	○	○
食文化・伝統料理・郷土料理について	伝統料理や郷土料理に対する市民の関心度などを把握する。	○	○	○
ボランティア（食生活改善推進員・健康づくり推進員）活動について	ボランティア（生活改善推進員・健康づくり推進員）活動に対する関心度などを把握する。	○	—	—
子どもの生活や体格について	生活習慣が形成される子どもの生活や体重に対する感じ方などを把握する。	—	○	○

3 調査に係るスケジュール

- 平成26年4月 関係団体との調整
- 5月 調査対象者の抽出、委託業務入札（集計・分析業務）
- 6月 調査票発送、督促状兼礼状送付、回収（約1か月間）
- 7月～ 集計・分析

調査項目一覧（成人）

成人

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:46 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):35 問
1	「食育」という言葉をどの程度知っていたか	継 続	「食育」という言葉をどの程度知っていたか
2	(No.1 付問)どこで知ったか	未実施	—
3	★「食育」に関心があるか	継 続	★「食育」に関心があるか
4	(No.2 付問)関心がある理由	未実施	—
5	「食育」に関する活動や行動をしているか	継 続	「食育」に関する活動や行動をしているか
6	(No.5 付問)活動や行動をしない理由	継 続	(No.5 付問)活動や行動をしない理由
7	「食育」として何を学ぶことが重要と思うか	未実施	—
8	自分の食生活に何か問題があると思うか	継 続	自分の食生活に何か問題があると思うか
9	(No.8 付問)どのような問題があると思うか	継 続	(No.8 付問)どのような問題があると思うか
10	★朝食を食べているか	継 続	★朝食を食べているか
11	(No.10 付問)主にどのような朝食を食べているか	未実施	—
12	(No.10 付問)いつ頃から食べないことがあったか	未実施	—
13	(No.10 付問)朝食を食べない最も大きな理由は何か	継 続	(No.10 付問)朝食を食べない最も大きな理由は何か
14	朝食を家族と食べることはどのくらいあるか	継 続	朝食を家族と食べることはどのくらいあるか
15	夕食を家族と食べることはどのくらいあるか	継 続	夕食を家族と食べることはどのくらいあるか
16	食事の際に気をつけているマナーは何	継 続	食事の際に気をつけているマナーは何
17	★食事をゆっくりとよく噛んで食べているか	継 続	★食事をゆっくりとよく噛んで食べているか
18	★食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか	継 続	★食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか
19	身近な飲食店、レストランなどは栄養バランスのとれたメニューを提供していると思うか	継 続	身近な飲食店、レストランなどは栄養バランスのとれたメニューを提供していると思うか
20	食事バランスガイドを知っているか	継 続	食事バランスガイドを知っているか
21	★(No.20 付問)日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えているか	継 続	★(No.20 付問)日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えているか
22	「食事バランスガイド」以外に参考にしているものはあるか	未実施	—
23	メタボリックシンドロームとは何か知っていたか	継 続	メタボリックシンドロームとは何か知っていたか
24	★メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践しているか	継 続	★メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践しているか
25	(No.24 付問)どのような取組をしているか	未実施	—
26	(No.24 付問)取組をしない理由は何か	継 続	(No.24 付問)取組をしない理由は何か
27	「健康づくり推進員・食生活改善推進員」を知っているか	継 続	「健康づくり推進員・食生活改善推進員」を知っているか
28	「健康づくり推進員・食生活改善推進員」の講座に参加したいと思うか	未実施	—
29	「食」に関するボランティアとして活動に参加してみたいか	未実施	—
30	★食品の安全性に不安を感じているか	継 続	★食品の安全性に不安を感じているか

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:46 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):35 問
31	(No.30 付問)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか	継 続	(No.30 付問)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか
32	食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何か	未実施	—
33	「地産地消」についてどの程度知っているか	継 続	「地産地消」についてどの程度知っているか
34	★農産物を購入する際、地場産のものを購入しているか	継 続	★農産物を購入する際、地場産のものを購入しているか
35	地場産の農産物を欲しいと思ったときに、簡単に手に入れたり、食べたりすることはできるか	未実施	—
36	農産物を買うとき、生産者のことを知りたいと思うか	未実施	—
37	地場産の農産物に対して、一番期待していることは何か	未実施	—
38	地産地消を推進していくために、どのような方策が効果的だと思うか	未実施	—
39	今までに「農業体験」をしたことがあるか	未実施	—
40	★食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか	継 続	★食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか
41	宇都宮の郷土料理といえば、何を思い出すか	未実施	—
42	おせちや七草がゆ等の伝統料理や宇都宮の郷土料理を食べたことがあるか	未実施	—
43	伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか	未実施	—
44	伝統料理や郷土料理を作ったことがあるか	未実施	—
45	(No.53 付問)それは何か	未実施	—
46	伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいと思うか	未実施	—
47	—	新 規	食堂、レストランなど飲食店での外食をどのくらい利用するか
48	—	新 規	コンビニやスーパーで購入する弁当・惣菜などの中食をどのくらい利用するか
49	—	新 規	日ごろから食品の安全性についての情報や知識を得ようとしているか
50	—	新 規	(No.49 付問)食品の安全性に関する情報や知識をどこから入手しているか。
51	—	新 規	(No.49 付問)していない理由は何か
52	—	新 規	食品の安全性は向上していると思うか
53	—	新 規	(No.34 付問)こだわらない理由は何か
54	—	新 規	(No.40 付問)どのようなきっかけで関心を持つか
55	—	新 規	「日本型食生活」を知っているか
56	—	新 規	(No.55 付問)日々の食事で「日本型食生活」を実践することはあるか

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:34 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):18 問
1	自分の食生活に何か問題があると思うか	未実施	—
2	(No.1 付問) 食生活の問題点はどのようなものか	未実施	—
3	朝ごはんを食べているか	継 続	朝ごはんを食べているか
4	(No.3付問) 主にどのような朝食を食べているか	未実施	—
5	(No.3付問) 朝食を食べない主な理由は何か	継 続	(No.3付問) 朝食を食べない主な理由は何か
6	夕食を何時頃に食べるか	未実施	—
7	朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか	継 続	朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか
8	夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか	継 続	夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか
9	平日(月～金)の食事は主に誰と一緒に食べるか	未実施	—
10	食事を楽しみにしているか	未実施	—
11	食事をゆっくりとよく噛んで食べているか	継 続	食事をゆっくりとよく噛んで食べているか
12	家での食事の際に、食事づくりや後片付けなどを手伝うか	未実施	—
13	食事の際に気をつけているマナーは何か	継 続	食事の際に気をつけているマナーは何か
14	おはしを正しく持っているか	未実施	—
15	身近な飲食店、レストランなどは、栄養バランスのとれたメニューを提供していると思うか	未実施	—
16	食事バランスガイドを知っていたか	継 続	食事バランスガイドを知っていたか
17	(No.16 付問) 日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えているか	継 続	(No.16 付問) 日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えているか
18	「食事バランスガイド」以外に参考にしているものはあるか	未実施	—
19	夜は何時頃寝るか	継 続	夜は何時頃寝るか
20	朝は何時頃起きるか	継 続	朝は何時頃起きるか
21	自分の体重をどう思っているか	未実施	—
22	自分の体重をどうしたいか	未実施	—
23	メタボリックシンドロームとは何か知っていたか	継 続	メタボリックシンドロームとは何か知っていたか
24	「食育」という言葉をどの程度知っていたか	継 続	「食育」という言葉をどの程度知っていたか
25	(No.24 付問) どこで知ったか	未実施	—
26	「食育」に関心があるか	継 続	「食育」に関心があるか
27	「地産地消」についてどの程度知っているか	継 続	「地産地消」についてどの程度知っているか
28	「農業体験」をしたことがあるか ※学校での体験も含む	未実施	—
29	食品の安全性に不安を感じているか	継 続	食品の安全性に不安を感じているか
30	(No.29 付問) 食品の安全性のどんな点に不安を感じているか	継 続	(No.29 付問) 食品の安全性のどんな点に不安を感じているか

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:34 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):18 問
31	食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか	継 続	食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか
32	おせち等の伝統料理や「しもつかれ」等の宇都宮地域の郷土料理を食べたことがあるか	未実施	—
33	伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか	未実施	—
34	伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいと思うか	未実施	—
35	—	新 規	食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

調査項目一覧（幼児・小学生）

幼児・小学生

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:38 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):20 問
1	お子さまは朝ごはんを食べるか	継 続	お子さまは朝ごはんを食べるか
2	(No.1付問)主にどのような朝食を食べるか	未実施	—
3	(No.1付問)朝食を食べない理由は何か	継 続	(No.1付問)朝食を食べない理由は何か
4	★お子さまが朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか	継 続	★お子さまが朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか
5	★お子さまが夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか	継 続	★お子さまが夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか
6	お子さまは食事は主に誰と一緒に食べるか	未実施	—
7	お子さまはどんなおやつ(間食)を食べるか	未実施	—
8	お子さまの食事の時間は決めているか	未実施	—
9	お子さまは夜は何時頃寝るか	継 続	お子さまは夜は何時頃寝るか
10	お子さまは朝は何時頃起きるか	継 続	お子さまは朝は何時頃起きるか
11	お子さまは食事を楽しみにしているか	未実施	—
12	お子さまは食事をゆっくりとよく噛んで食べているか	継 続	お子さまは食事をゆっくりとよく噛んで食べているか
13	お子さまはすききらいがあるか	継 続	お子さまはすききらいがあるか
14	(No.13 付問)お子さまのきらいな食べ物はなにか	未実施	—
15	(No.13 付問)お子さまにきらいなたべものを食べさせるために何をするか	継 続	(No.13 付問)お子さまにきらいなたべものを食べさせるために何をするか
16	お子さまと一緒に実践している食育の取組みはなにか	継 続	お子さまと一緒に実践している食育の取組みはなにか
17	お子さまはおはしを正しく持っているか	未実施	—
18	お子さまは今までに「農業体験」をしたことがあるか ※学校等での体験も含む	未実施	—
19	(No.18 付問)お子さまは「農業体験」をしてどう感じているか	未実施	—
20	お子さまはおせち等の伝統料理や「しもつかれ」等の宇都宮地域の郷土料理を食べたことがあるか	未実施	—
21	お子さまは伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか	未実施	—
22	あなた(保護者)は「食育」を知っていたか	継 続	あなた(保護者)は「食育」を知っていたか
23	(No.22 付問)どこで知ったか	未実施	—
24	あなた(保護者)は「食育」に関心があるか	継 続	あなた(保護者)は「食育」に関心があるか
25	あなた(保護者)はお子さまの「食育」がなぜ必要だと思えるか	未実施	—
26	あなた(保護者)はお子さまの「食育」はいつ頃から始めるのが良いと思えるか	未実施	—
27	食育はいつまで必要か	未実施	—
28	あなた(保護者)はお子さまの「食育」は主にどのような場で行うものだと思うか	未実施	—

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

No.	H23「食育に関する意識調査」調査項目:46 問	取扱い	H26「食育に関する意識調査」調査項目(案):20 問
29	学校や保育園などの給食を通じた「食育」で、あなた(保護者)が最も力を入れて欲しいと思うことは何か。	未実施	—
30	学校、保育園などから提供される「食育」に関する情報や体験の中で、あなた(保護者)が最も必要だと思うものは何か	未実施	—
31	あなた(保護者)は子育てでは何に重点をおいているか	未実施	—
32	あなた(保護者)は食品の安全性に不安を感じているか	継続	あなた(保護者)は食品の安全性に不安を感じているか
33	(No.32 付問)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか	継続	(No.32 付問)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか
34	あなた(保護者)が食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何か	未実施	—
35	あなた(保護者)はメタボリックシンドロームとは何か知っていたか	継続	あなた(保護者)はメタボリックシンドロームとは何か知っていたか
36	あなた(保護者)はメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを継続的に実践しているか	継続	あなた(保護者)はメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを継続的に実践しているか
37	(No.36 付問)あなた(保護者)はメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組みを実践しているか	未実施	—
38	(No.36 付問)あなた(保護者)がメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを実践しない理由は何か	継続	あなた(保護者)がメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを実践しない理由は何か
39	—	新規	あなた(保護者)は農産物を購入する際、地場産のものを購入しているか
40	—	新規	あなた(保護者)が食事の際に気をつけているマナーは何か
41	—	新規	あなた(保護者)は食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか

★：実践目標（成果指標）を把握する設問

区分	No.	平成 23 年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成 26 年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食育について	1	「食育」という言葉をどの程度知っていたか 1 言葉も意味も知っていた 2 言葉は知っていたが意味はわからなかった 3 知らなかった	変更なし	・「食育の現状と課題」を把握する指標の1つとして用いている。 ・国においても同一の調査項目がある。
	2	(No.1 で 1・2 と回答) どこで知ったか 1 テレビ・ラジオ 2 新聞・雑誌・本 3 インターネット 4 公的な刊行物 5 イベント 6 家族・友人 7 保育園, 幼稚園, 学校等での取組 8 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	3	★「食育」に関心があるか 1 関心がある 2 どちらかといえば関心がある 3 どちらかといえば関心がない 4 関心がない 5 わからない	変更なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。 ・国においても同一の調査項目がある。
	4	(No.3 で 1・2 と回答) 関心がある理由 1 子供の心身の健全な発育のために必要だから 2 食生活の乱れが問題であるから 3 肥満ややせすぎが問題であるから 4 生活習慣病の増加が問題であるから 5 食品偽装表示問題や食中毒の発生など, 食品の安全確保が重要だから 6 食にまつわる地域の文化や伝統を守ることが大切だから 7 食料を海外からの輸入に依存しすぎているから 8 消費者と生産者の間の関係が大切だと思うから 9 有機農業など自然環境と調和した食糧生産が大切だから 10 大量の食べ残しなど食品廃棄物が問題であるから 11 自然の恩恵や食に対する感謝の気持ちがうすれているから 12 箸の使い方や食べ方など正しい食事マナーの習得が大切だから 13 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	5	「食育」に関する活動や行動をしているか 1 積極的にしている 2 できるだけするようにしている 3 あまりしていない 4 したいと思っているが, 実際にはしていない 5 したいと思わないし, していない	変更なし	・重点を置く「食育の実践」について, 進捗状況を把握する。

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食育について	6	(No.5で3・4・5と回答) 活動や行動をしない理由 1 「食育」に関心がないから 2 「食育」への関心はあるが、他のこと(仕事・趣味等)で忙しいから 3 「食育」を特に意識しなくても問題はないから 4 「食育」自体についてよく知らないから 5 活動や行動をしたくても情報が入手できないから 6 特になし 7 その他()	変更なし	・重点を置く「食育の実践」を推進するため、実践しない理由を把握し、今後の施策に活かす。
	7	「食育」として何を学ぶことが重要と思うか 1 食品添加物などの食の安全に関すること 2 農業生産や加工食品などの製造過程 3 楽しい食事や栄養管理などによる健全な食生活 4 作物を育てたり、家畜の世話をする体験 5 料理についての知識や技術の習得 6 郷土料理などの食文化や歴史 7 箸や食器の使い方、食べ方など正しい食事マナー 8 その他()	最終評価のみ設定	—
食生活について	8	自分の食生活に何か問題があると思うか 1 問題があり改善したいと思う 2 問題はあるが改善したいと思わない 3 気をつけていて問題はない 4 食生活に関心がない	変更なし	・食生活については様々な種類の設問があるため、総括的な質問により、自身の食生活に対する市民の意識を把握する。
	9	(No.8で1・2と回答) どのような問題があるか 1 栄養のバランスが悪い 2 欠食がある 3 間食が多い 4 食べすぎてしまう 5 外食や中食などが多い 6 その他()	変更なし	・市民の意識として、食生活のどんなところに問題を感じているのかを把握し、今後の施策に活かす。
	10	★朝食を食べているか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べない	変更なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。 ・国においても同一の調査項目がある。
	11	(No.10で1と回答) 主にどのような朝食を食べているか 1 ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食 2 魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず 3 野菜・海藻・きのこ・芋を使ったおかず 4 みそ汁・スープなどの汁物 5 牛乳・乳製品 6 果物 7 菓子 8 サプリメント・バランス栄養食品 9 飲み物() 10 その他()	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	12	(No.10で2・3・4・5と回答) いつ頃から食べないことがあったか 1 小学生になる前から 2 小学生の頃から 3 中学生の頃から 4 高校生の頃から 5 高校を卒業した頃から 6 20～29歳 7 30～39歳 8 40～49歳 9 50～59歳 10 60～69歳 11 70歳以上	最終評価のみ設定	—
	13	(No.10で2・3・4・5と回答) 朝食を食べない最も大きな理由は何か 1 時間がない 2 食欲がわからない 3 朝食を食べるより寝ていたい 4 減量(ダイエット)のため 5 朝食が用意されていない 6 以前から食べる習慣がない 7 食べることや準備することが面倒 8 その他()	変更なし	・実践目標である朝食の摂取について、朝食を食べない理由を把握し、今後の施策に活かす。
	14	朝食を家族と食べることはどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし	・実践テーマとなっている共食の現状を把握する項目である ・幼児・小学生の実践目標にもなっている項目なので成人においても把握する。
	15	夕食を家族と食べることはどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし	・国においても同一の調査項目がある。
	16	食事の際に気をつけているマナーは何か 1 食事のあいさつ 2 箸の持ち方・使い方 3 食器を持って食べる 4 食器の配置 5 食べ物を残さない 6 食事中にほかの事をしない 7 肘をつかない 8 その他()	変更なし	・実践テーマとなっている食のマナーについて把握する項目である。 ・中学生と小学生の実践目標に類似の項目がある。
	17	★食事をゆっくりとよく噛んで食べているか 1 よく噛んで食べている 2 あまり噛んでいない 3 わからない	変更なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。 ・国においても同一の調査項目がある。

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	18	★食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか 1 買い過ぎないようにしている 2 作り過ぎないようにしている 3 残さないように食べている 4 特に気をつけていない 5 その他 ()	変更 なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。
	19	身近な飲食店、レストランなどは、栄養バランスのとれたメニューを提供していると思うか 1 ほとんどが提供していると思う 2 半分くらいが提供していると思う 3 提供しているところは少ないと思う 4 わからない	変更 なし	・他の計画の目標項目で使われているため、現状を把握する。
	20	食事バランスガイドを知っているか 1 よく知っていた 2 だいたい知っていた 3 言葉は聞いたことがある 4 知らなかった	変更 なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。
	21	(No.20で1・2と回答)★日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えてるか 1 毎日参考にしている 2 時々参考にしている 3 参考にしていない 4 これから参考にしたい	変更 なし	
	22	「食事バランスガイド」以外に参考にしているものはあるか 1 食生活指針 2 栄養成分表示 3 食事摂取基準 4 3色食品群 5 6つの基礎食品 6 参考にしていない 7 その他 ()	最終評価 のみ設定	—
メタボリックシンドロームについて	23	メタボリックシンドロームとは何か知っていたか 1 知っていた 2 言葉を聞いたことはあるが知らなかった 3 知らなかった	変更 なし	・計画の実践目標の達成状況を把握するうえで重要な項目となるため、現状を把握する。
	24	★メタボリックシンドロームの予防や改善のための取組を継続的に実践しているか 1 実践して、半年以上継続している 2 実践しているが、半年未満である 3 時々気をつけているが、継続的ではない 4 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている 5 現在もしていないし、しようとも思わない	変更 なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。 ・国においても同一の調査項目がある。

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
メタボリックシンドロームについて	25	(No.24で1・2・3と回答) どのような取組をしているか 1 定期的な運動 2 栄養バランスのよい食事 3 食べ過ぎない 4 1日3食食べる 5 夜遅い時間に食べない 6 アルコールを控えている 7 禁煙 8 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	26	(No.24で4・5と回答) 取組をしない理由は何か 1 自分の健康に自信がある 2 病気の自覚がない 3 病気になってから治療をすればよい 4 生活習慣を改善することがストレスになる 5 生活習慣を改善する時間的ゆとりがない 6 生活習慣を改善する経済的ゆとりがない 7 社会的な環境(運動施設・栄養成分表示がないなど)が整っていない 8 面倒だから取組まない 9 その他 ()	変更なし	・実践目標であるメタボリックシンドロームの予防や改善について、取組まない理由を把握し、今後の施策に活かす。
ボランティア活動について	27	「健康づくり推進員・食生活改善推進員」を知っているか 1 言葉も活動も知っていた 2 言葉を聞いたことはあるが、活動は知らなかった 3 知らなかった	変更なし	・食に関するボランティアの地域での活動について、認知度を把握する。
	28	「健康づくり推進員・食生活改善推進員」の講座に参加したいと思うか 1 親子料理教室や郷土料理教室 2 生活習慣病予防のための勉強会 3 親子収穫体験などの農業体験 4 参加したいと思わない 5 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	29	「食」に関するボランティアとして活動に参加してみたいか 1 参加してみたい 2 条件が合えば参加してみたい 3 参加はしないが興味はある 4 参加したくない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食の安全・安心について	30	★食品の安全性に不安を感じているか 1 感じている 2 多少は感じている 3 あまり感じていない 4 感じていない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践目標の達成状況を把握する調査項目である。
	31	(No.30で1・2と回答)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか 1 食品中の残留農薬 2 遺伝子組換え食品 3 O157・O111等の食中毒 4 食品添加物 5 食品表示(偽装・虚偽誇大) 6 異物混入 7 容器包装からの溶出化学物質 8 ダイオキシン 9 輸入食品 10 BSE(牛海面状脳症) 11 口蹄疫 12 放射能による影響 13 事業者の衛生管理 14 行政による指導・監視体制 15 その他()	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践目標である食品の安全性に不安を感じることにについて、どんな点に不安を感じているかを把握し、今後の施策に活かす。
	32	食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何か 1 賞味(消費)期限 2 原材料名 3 使用添加物 4 内容量 5 栄養成分(エネルギー・たんぱく質など) 6 ブランド名 7 産地・生産者名 8 製造加工者名 9 保存方法 10 使用方法 11 アレルギー物質 12 遺伝子組換え 13 特に気をつけていない 14 その他()	最終評価のみ設定	—
地産地消について	33	「地産地消」についてどの程度知っているか 1 具体的な取り組み例を知っていた 2 言葉だけでなく、意味も知っていた 3 言葉だけは知っていた 4 知らなかった	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 他の計画の目標項目で使われているため、現状を把握する。
	34	★農産物を購入する際、地場産のものを購入しているか 1 できる限りそうしている 2 たまにそうしている 3 こだわらない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践目標の達成状況を把握する調査項目である。

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
地産地消について	35	地場産の農産物を欲しいと思ったときに、簡単に手に入れたり、食べたりすることはできるか 1 簡単に手に入る 2 少し苦勞するが手に入れることができる 3 手に入れることは困難である 4 わからない	最終評価のみ設定	—
	36	農産物を買うとき、生産者のことを知りたいと思うか 1 知りたい 2 ある程度は知りたい 3 知りたくない 4 どちらでもよい	最終評価のみ設定	—
	37	地場産の農産物に対して、一番期待していることは何か 1 安全・安心 2 新鮮さ 3 食味 4 低価格 5 その他()	最終評価のみ設定	—
	38	地産地消を推進していくために、どのような方策が効果的だと思うか 1 スーパーなどの量販店に地場産コーナー設置 2 学校給食における地場農産物の利用促進 3 飲食店における地場産農産物の利用促進 4 地産地消フェアなどのイベントの活用 5 農産物直売所の充実 6 その他()	最終評価のみ設定	—
	39	今までに「農業体験」をしたことがあるか 1 種まきから収穫までしたことがある(家庭菜園やミニトマトの鉢植栽培等も含む。) 2 収穫体験など、部分的にしたことがある(イモ掘り体験・観光農園での摘み取り等も含む。) 3 体験したことはない	最終評価のみ設定	—
	食文化・伝統料理・郷土料理について	40	★食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか 1 関心がある 2 まあまあ関心がある 3 それほど関心はない 4 関心はない	変更なし
41		宇都宮の郷土料理といえば、何を思い出すか (自由記載)	最終評価のみ設定	—
42		おせちや七草がゆ等の伝統料理や宇都宮の郷土料理を食べたことがあるか 1 食べたことがある 2 食べたことがない 3 わからない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食文化・ 伝統料理・ 郷土料理 について	43	伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか 1 家庭での食卓 2 飲食店 3 地域の行事やイベント 4 職場給食 5 その他 ()	最終評価 のみ設定	—
	44	伝統料理や郷土料理を作ったことがあるか 1 作ったことがある 2 作り方は知っているが、作ったことはない 3 作り方を知らない	最終評価 のみ設定	—
	45	(No.44 付問) それは何か (自由記載)	最終評価 のみ設定	—
	46	伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいと思うか 1 参加したい 2 時間があれば参加したい 3 どちらともいえない 4 参加したくない	最終評価 のみ設定	—

区分	No.	平成 23 年度調査時の設問・選択肢 (★: 実践目標)	平成 26 年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	1	自分の食生活に何か問題があると思うか 1 問題があり改善したいと思う 2 問題はあるが改善したいと思わない 3 気をつけていて問題はない 4 食生活に関心がない	最終評価のみ設定	—
	2	(No.1 で 1・2 と回答) 食生活の問題点はどのようなものか 1 栄養のバランスが悪い 2 欠食がある 3 間食が多い 4 食べすぎてしまう 5 外食や中食などが多い 6 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	3	朝食を食べているか 1 毎日食べる 2 週 5 ~ 6 回程度食べる 3 週 3 ~ 4 回程度食べる 4 週 1 ~ 2 回程度食べる 5 食べない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている朝食摂取の状況を把握する項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
	4	(No.3 で 1 と回答) 主にどのような朝食を食べているか 1 ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食 2 魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず 3 野菜・海藻・きのこ・芋を使ったおかず 4 みそ汁・スープなどの汁物 5 牛乳・乳製品 6 果物 7 菓子 8 サプリメント・バランス栄養食品 9 飲み物 () 10 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	5	(No.3 で 2・3・4・5 と回答) 朝食を食べない主な理由は何か 1 時間がない 2 食欲がわかない 3 朝食を食べるより寝ていたい 4 減量 (ダイエット) のため 5 朝食が用意されていない 6 以前から食べる習慣がない 7 食べることや準備することが面倒 8 その他 ()	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践目テーマである朝食の摂取について、朝食を食べない理由を把握し、今後の施策に活かす。
	6	夕食を何時頃に食べるか 1 午後 7 時前 2 午後 7 時から 8 時台 3 午後 9 時から 10 時台 4 午後 11 時以降	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方		
食生活について	7	朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている共食の状況を把握する項目である。 幼児・小学生の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。 		
	8	夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし			
	9	平日（月～金）の食事は主に誰と一緒に食べるか <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <朝食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <夕食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり </td> </tr> </table>	<朝食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり	<夕食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり	最終評価のみ設定	—
	<朝食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり	<夕食> 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり				
	10	食事を楽しみにしているか 1 楽しみにしている 2 楽しんでいない 3 わからない	最終評価のみ設定	—		
	11	食事をゆっくりとよく噛んで食べているか 1 よく噛んで食べている 2 あまり噛んでいない 3 わからない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっているよく噛んで食べることの状況を把握する項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。 		
	12	家での食事の際に、食事づくりや後片付けなどを手伝うか 1 よく手伝う 2 時々手伝う 3 手伝わない	最終評価のみ設定	—		
13	食事の際に気をつけているマナーは何か 1 食事のあいさつ 2 箸の持ち方・使い方 3 食器を持って食べる 4 食器の配置 5 食べ物を残さない 6 食事中にほかの事をしない 7 肘をつかない 8 その他（ ）	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている食事マナーについて状況を把握する項目である。 			

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	14	おはしを正しく持っているか 1 正しく持っている 2 正しく持っていない	最終評価のみ設定	—
	15	身近な飲食店、レストランなどは、栄養バランスのとれたメニューを提供していると思うか 1 ほとんどが提供していると思う 2 半分くらいが提供していると思う 3 提供しているところは少ないと思う 4 わからない	最終評価のみ設定	—
	16	食事バランスガイドを知っていたか 1 よく知っていた 2 だいたい知っていた 3 言葉は聞いたことがある 4 知らなかった	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> ・実践テーマとなっている栄養バランスの良い食事を心がけることの状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
	17	(No.16で1・2と回答)★日々の食事で「食事バランスガイド」を参考にメニューを考えてるか 1 毎日参考にしている 2 時々参考にしている 3 参考にしていない 4 これから参考にしたい	変更なし	
	18	「食事バランスガイド」以外に参考にしているものはあるか 1 食生活指針 2 栄養成分表示 3 食事摂取基準 4 3色食品群 5 6つの基礎食品 6 参考にしていない 7 その他 ()	最終評価のみ設定	—
生活や体格について	19	夜は何時頃寝るか 1 午後7時前 2 午後7時台 3 午後8時台 4 午後9時台 5 午後10時台 6 午後11時以降	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取や共食の状況をみるうえで、併せて把握する。
	20	朝は何時頃起きるか 1 午前6時前 2 午前6時台 3 午前7時台 4 午前8時台 5 午前9時台 6 午前10時以降	変更なし	
	21	自分の体重をどう思っているか 1 やせている 2 ちょうどよい 3 太っている 4 わからない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
生活や体格	22	自分の体重をどうしたいか 1 やせたい 2 このままでよい 3 太りたい 4 わからない	最終評価のみ設定	—
		メタボリック 23		
食育について	24	「食育」という言葉をどの程度知っていたか 1 言葉も意味も知っていた 2 言葉は知っていたが意味はわからなかった 3 初めて聞いた	変更なし	・「食育の現状と課題」を把握する指標の1つとして用いている。 ・国においても同一の調査項目がある。
		25		
	26	「食育」に関心があるか 1 関心がある 2 どちらかといえば関心がある 3 どちらかといえば関心がない 4 関心がない 5 わからない	変更なし	・実践テーマとなっている食育への興味・関心について状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
地産地消について	27	「地産地消」についてどの程度知っているか 1 具体的な取り組み例を知っていた 2 言葉だけでなく、意味も知っていた 3 言葉だけは知っていた 4 知らなかった	変更なし	・実践テーマとなっている農業や地場農産物への興味・関心について関連する項目である。
		28		

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食の安全・安心について	29	食品の安全性に不安を感じているか 1 感じている 2 多少は感じている 3 あまり感じていない 4 感じていない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている食品の安全性について関連する項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
	30	(No.29で1・2と回答)食品の安全性のどんな点に不安を感じているか 1 食品中の残留農薬 2 遺伝子組換え食品 3 O157・O111等の食中毒 4 食品添加物 5 食品表示(偽装・虚偽誇大) 6 異物混入 7 容器包装からの溶出化学物質 8 ダイオキシン 9 輸入食品 10 BSE(牛海面状脳症) 11 口蹄疫 12 放射能による影響 13 事業者の衛生管理 14 行政による指導・監視体制 15 その他()	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマである食品の安全性に不安を感じることにについて、どんな点に不安を感じているかを把握し、今後の施策に活かす。
食文化・伝統料理・郷土料理について	31	食文化や各地に伝わる伝統料理について関心があるか 1 関心がある 2 まあまあ関心がある 3それほど関心はない 4 関心はない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている郷土料理・伝統料理について関連する項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
	32	おせち等の伝統料理や「しもつかれ」等の宇都宮地域の郷土料理を食べたことがあるか 1 食べたことがある 2 食べたことがない 3 わからない	最終評価のみ設定	—
	33	伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか 1 家庭での食卓 2 飲食店 3 地域の行事やイベント 4 保育園や幼稚園, 学校給食 5 その他()	最終評価のみ設定	—
	34	伝統料理・郷土料理を習う機会があれば参加してみたいと思うか 1 参加したい 2 時間があれば参加したい 3 どちらともいえない 4 参加したくない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成 23 年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成 26 年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	1	お子さまは朝食を食べるか 1 必ず食べる 2 1週間に1～2日食べないことがある 3 1週間に3～4日食べないことがある 4 ほとんど食べない	変更なし	・実践テーマとなっている朝食摂取の状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので幼児・小学生においても把握する。
	2	(No.1で1と回答) 主にどのような朝食を食べるか 1 ご飯・パン・麺・シリアルなどの主食 2 魚・肉・卵・大豆製品を使ったおかず 3 野菜・海藻・きのこ・芋を使ったおかず 4 みそ汁・スープなどの汁物 5 牛乳・乳製品 6 果物 7 菓子 8 サプリメント・バランス栄養食品 9 飲み物 () 10 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	3	(No.1で2・3・4と回答) 朝食を食べない理由は何か 1 時間がない 2 食欲がわかない 3 朝食を食べるより寝ていたい 4 減量(ダイエット)のため 5 保護者が食べない 6 その他 ()	変更なし	・実践テーマである朝食の摂取について、朝食を食べない理由を把握し、今後の施策に活かす。
	4	★お子さまが朝食を家族と食べることは週にどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。
	5	★お子さまが夕食を家族と食べることは週にどのくらいあるか 1 毎日食べる 2 週5～6回程度食べる 3 週3～4回程度食べる 4 週1～2回程度食べる 5 食べることはない	変更なし	・実践目標の達成状況を把握する調査項目である。
	6	お子さまは、食事は主に誰と一緒に食べるか ＜朝食＞ 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり ＜夕食＞ 1 家族全員 2 母 3 父 4 兄弟姉妹 5 祖父母 6 ひとり	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
生活や性格について	7	お子さまはどんなおやつ(間食)を食べるか 自由記入	最終評価のみ設定	—
	8	お子さまの食事の時間は決めているか 1 決めている 2 決めていないがだいたい同じ時間 3 不規則になりがち	最終評価のみ設定	—
	9	お子さまは夜は何時頃寝るか 1 午後7時前 2 午後7時台 3 午後8時台 4 午後9時台 5 午後10時台 6 午後11時以降	変更なし	・朝食摂取や共食の状況を見るうえで、併せて把握する。
	10	お子さまは朝は何時頃起きるか 1 午前6時前 2 午前6時台 3 午前7時台 4 午前8時台 5 午前9時台 6 午前10時以降	変更なし	
	11	お子さまは食事を楽しみにしているか 1 楽しみにしている 2 楽しみにしていない 3 わからない	最終評価のみ設定	
	12	お子さまは食事をゆっくりとよく噛んで食べているか 1 よくかんでいる 2 あまりかんでいない 3 わからない	変更なし	・実践テーマとなっているよく噛んで食べることの状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
	13	お子さまはすききらいがあるか 1 すききらいがたくさんある 2 すききらいが少しある 3 すききらいはない	変更なし	・実践テーマとなっている栄養バランスの良い食事を心がけることに関連する項目である。
	14	(No.13で1,2と回答) お子さまのきれいな食べ物はなにか 自由記入	最終評価のみ設定	—
	15	(No.13で1,2と回答) お子さまにきれいな食べものを食べさせるために何をするか 1 食べたほめたり、ごほうびをあげたりする 2 調理方法を工夫する 3 周りの人が食べてみせる 4 食べなくても食卓に出し続ける 5 説得する 6 怒って食べさせる 7 食べるまで食卓に座らせておく 8 何もしない	変更なし	・実践テーマとなっている栄養バランスの良い食事を心がけることに関連する項目である。

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食生活について	16	お子さまと一緒に実践している食育の取組みはなにか 1 食事のあいさつをする 2 箸の持ち方や使い方に気をつける 3 食事の買い物をする 4 料理をする 5 食べ物を残さず食べる 6 食べ物に対する感謝の気持ちを持つ 7 その他()	変更なし	・重点を置く「食育の実践」について、進捗状況を把握する。
	17	お子さまはおはしを正しく持っているか 1 正しく持っている 2 正しく持っていない 3 まだおはしを使っていない	最終評価のみ設定	—
地産地消について	18	お子さまは今までに「農業体験」をしたことがあるか ※保育園・幼稚園，学校等での体験も含む。 1 種まきから収穫までしたことがある（家庭菜園やミニトマトの鉢植栽培等も含む。） 2 収穫体験など，部分的にしたことがある（イモ掘り体験・観光農園での摘み取り等も含む。） 3 したことはない	最終評価のみ設定	—
	19	(No.18で1, 2と回答) お子さまは「農業体験」をしてどう感じているか 1 楽しかったので，またやってみたい 2 楽しくなかったので，もうやりたくない 3 生産者の大変さがわかった 4 わからない	最終評価のみ設定	—
食文化・伝統料理・郷土料理について	20	お子さまはおせち等の伝統料理や「しもつかれ」等の地元の郷土料理を食べたことがあるか 1 食べたことがある 2 食べたことがない 3 わからない	最終評価のみ設定	—
	21	お子さまは伝統料理や郷土料理をどのような機会に食べたか 1 家庭での食卓 2 飲食店 3 地域の行事やイベント 4 保育園や幼稚園，学校給食 5 その他()	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食育について	22	あなた（保護者）は「食育」を知っていたか 1 言葉も意味も知っていた 2 言葉は知っていたが意味はわからなかった 3 知らなかった	変更なし	・「食育の現状と課題」を把握する指標の1つとして用いている。 ・国においても同一の調査項目がある。
	23	(No.22で1・2と回答) どこで知ったか 1 テレビ・ラジオ 2 新聞・雑誌・本 3 インターネット 4 公的な刊行物 5 イベント 6 家族や友人 7 保育園, 幼稚園, 学校等での取組み 8 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	24	あなた（保護者）は「食育」に関心があるか 1 関心がある 2 どちらかといえば関心がある 3 どちらかといえば関心がない 4 関心がない 5 わからない	変更なし	・実践テーマとなっている食育への興味・関心について状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので幼児・小学生においても把握する。
	25	あなた（保護者）はお子さまの「食育」がなぜ必要だと思うか 1 学習やスポーツをするための体力づくりの基礎となるから 2 食事とおとしたコミュニケーションで良好な人間関係をつくれるようになるから 3 脳が発達するためにはバランスのよい栄養が必要だから 4 病気をしない健康な体をつくるのには食事が重要だから 5 キレたりする要因の1つに食生活の乱れがあるとされているから 6 特に必要だとは思わない	最終評価のみ設定	—
	26	あなた（保護者）はお子さまの「食育」はいつ頃から始めるのが良いと思うか 1 生まれたときから 2 離乳食が始まる頃 3 1～2歳頃 4 3～5歳頃 5 小学校低学年 6 小学校高学年 7 中学生 8 高校生 9 成人 10 必要ない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食育について	27	食育はいつまで必要か 1 1～2歳頃 2 3～5歳頃 3 小学校低学年 4 小学校高学年 5 中学生 6 高校生 7 成人 8 生涯にわたって 9 必要ない	最終評価のみ設定	—
	28	あなた(保護者)はお子さまの「食育」は主にどのような場で行うものだと思うか 1 家庭 2 保育園, 幼稚園 3 小学校 4 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	29	学校や保育園などの給食を通じた「食育」で、あなた(保護者)が最も力を入れて欲しいと思うことは何か。 1 バランスの良い食事の仕方 2 手洗いや食事のマナー 3 自然の恵みや勤労への感謝の気持ち 4 食事の準備や片付けなど 5 食文化や食料の生産, 流通, 消費など 6 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	30	学校, 保育園などから提供される「食育」に関する情報や体験の中で、あなた(保護者)が最も必要だと思うものは何か 1 食に関する勉強会 2 親子で使える食に関する情報 3 親子料理教室 4 農業体験など体験活動 5 その他 ()	最終評価のみ設定	—
	31	あなた(保護者)は子育てでは何に重点をおいているか 1 学び(習い事) 2 健康 3 しつけ 4 食事 5 心のゆたかさ 6 コミュニケーション 7 その他 ()	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
食の安全・安心について	32	あなた（保護者）は食品の安全性に不安を感じているか 1 感じている 2 多少は感じている 3 あまり感じていない 4 感じていない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマとなっている食品の安全性について関連する項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので幼児・小学生においても把握する。
	33	(No.32 で 1, 2 と回答) 食品の安全性のどんな点に不安を感じているか 1 食品中の残留農薬 2 遺伝子組換え食品 3 O157・O111等の食中毒 4 食品添加物 5 食品表示（偽装・虚偽誇大） 6 異物混入 7 容器包装からの溶質化学物質 8 ダイオキシン 9 輸入食品 10 BSE（牛海面状脳症） 11 口蹄疫 12 放射能による影響 13 事業者の衛生管理 14 行政による指導・監視体制 15 その他（ ）	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマである食品の安全性に不安を感じることにについて、どんな点に不安を感じているかを把握し、今後の施策に活かす。
	34	あなた（保護者）が食品を購入する際に、食品表示で気をつけることは何か 1 賞味（消費）期限 2 原材料名 3 使用添加物 4 内容量 5 栄養成分（エネルギー・たんぱく質など） 6 ブランド名 7 産地・生産者名 8 製造加工者名 9 保存方法 10 使用方法 11 アレルギー物質 12 遺伝子組換え 13 その他（ ） 14 特に気をつけていない	最終評価のみ設定	—

区分	No.	平成23年度調査時の設問・選択肢 (★：実践目標)	平成26年度 取扱い	設定に当たっての考え方
メタボリックシンドロームについて	35	あなた（保護者）はメタボリックシンドロームとは何か知っていたか 1 知っていた 2 言葉を聞いたことはあるが知らなかった 3 知らなかった	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 計画の実践目標の達成状況を把握するうえで重要な項目となるため、現状を把握する。
	36	あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを継続的に実践しているか 1 実践して、半年以上継続している 2 実践しているが、半年未満である 3 時々気をつけているが、継続的ではない 4 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている 5 現在もしていないし、しようとも思わない	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマにあるメタボリックシンドロームの予防や改善の状況を把握する調査項目である。 成人の実践目標にもなっている項目なので幼児・小学生においても把握する。
	37	(No.36で1,2,3と回答)あなた（保護者）はメタボリックシンドロームの予防や改善のために、どのような取組みを実践しているか 1 定期的な運動 2 栄養バランスのよい食事 3 食べ過ぎない 4 1日3食食べる 5 夜遅い時間に食べない 6 アルコールを控えている 7 禁煙 8 その他（ ）	最終評価のみ設定	—
	38	あなた（保護者）がメタボリックシンドロームの予防や改善のための取組みを実践しない理由は何か 1 自分の健康に自信がある 2 病気の自覚がない 3 病気になってから治療をすればよい 4 生活習慣を改善することがストレスになる 5 生活習慣を改善する時間的ゆとりがない 6 生活習慣を改善する経済的ゆとりがない 7 社会的な環境（運動施設・栄養成分表示がないなど）が整っていない 8 面倒だから取り組まない 9 その他（ ）	変更なし	<ul style="list-style-type: none"> 実践テーマであるメタボリックシンドロームの予防や改善について、取り組まない理由を把握し、今後の施策に活かす。

新規の設問について

区分	No.	新規の設問	基本的な考え方
成人（18歳以上）…9問	1	食堂、レストランなど飲食店での外食をどのくらい利用するか 1 ほとんど毎日 2 週に3～4回 3 週に1～2回 4 月に1～3回 5 ほとんど利用しない	<ul style="list-style-type: none"> ・前回調査において、自分の食生活に問題があり改善したいと思っている理由として、「外食や中食が多い」と答えた人は、肥満率の悪化など健康課題が見られる男性の回答が比較的多かったため、その現状を把握し、今後の施策に活かす。 ・国においても類似の調査項目がある。
	2	コンビニやスーパーで購入する弁当・惣菜などの中食*をどのくらい利用するか ※中食とは、家庭外で調理された食品を購入して持ち帰り、家庭の食卓で食べる食事形態をいいます。持帰り弁当、惣菜、出前等が「中食（なかしょく）」です。 1 ほとんど毎日 2 週に3～4回 3 週に1～2回 4 月に1～3回 5 ほとんど利用しない	
	3	日ごろから食品の安全性についての情報や知識を得ようとしているか 1 積極的にしている 2 できるだけするようにしている 3 あまりしていない 4 したいと思っているが、していない 5 したいと思わないし、していない	<ul style="list-style-type: none"> ・実践テーマとなっている食の安全性に関する正しい知識を持つことについて把握することに関連する項目である。 ・国においても類似の目標・調査項目があるため把握する。
	4	(No.4 で 1・2 と回答) 食品の安全性に関する情報や知識をどこから入手しているか。 1 専門書 2 新聞、雑誌 3 テレビ、ラジオ 4 講習会、イベント 5 市や県などの相談窓口 6 友人、知人、家族、親戚 7 インターネット・メール配信 8 その他 ()	<ul style="list-style-type: none"> ・食の安全性について不安を感じる人は多く、計画の実践テーマにもなっている食の安全性に関する正しい知識を身に付けることについて、効果的な周知方法を把握する。 ・興味や関心を持っていない理由を把握する。
	5	(No.4 で 4・5 と回答) していない理由は何か 1 食品の安全性について興味がないから 2 現在の環境に安心しているから 3 関心や興味を持っても余り意味がないと思うから 4 時間がないから 5 その他 ()	
	6	食品の安全性は向上していると思うか 1 向上している 2 少しは向上している 3 向上していない 4 わからない	<ul style="list-style-type: none"> ・実践目標である食品の安全性について不安を感じている人の割合について、環境面に対してどう感じているかを併せて把握する。

区分	No.	新規の設問	基本的な考え方
成人（18歳以上）…10問	7	（別紙2-1 No.34 で3 と回答）地場産の農産物にこだわらない理由は何か 1 いつも買い物に行くお店に売っていないから 2 地場産かどうかを特に意識していないから 3 名産地や他県・他市のものが安いから 4 その他（ ）	・実践目標である地場農産物をできる限り購入することについて、購入しない理由を把握し、今後の施策に活かす。
	8	（別紙2-1 No.40 で1・2 と回答）食文化や伝統料理にどのようなきっかけで関心を持つか 1 知人、友人、家族、親戚の人の話を聞いて 2 食に関するイベントや料理教室 3 テレビ・新聞等の報道や特集 4 その他（ ）	・実践目標である郷土料理や伝統料理に関心を持つことについて、関心を持ったきっかけを把握し、今後の施策に活かす。
	9	「日本型食生活」を知っているか 1 言葉も意味も知っていた 2 言葉は知っていたが意味はわからなかった 3 知らなかった	・国の食育推進基本計画において、食育の総合的な促進の今後の方向性として、「日本型食生活」等の食文化の継承が位置付けられているため、現状を把握する。
	10	（No.9 で1 と回答）日々の食事で「日本型食生活」を実践することはあるか 1 毎日実践している 2 時々実践している 3 実践していない 4 これから実践したい	
中学・高校生…1問	11	食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか 1 買いすぎないようにしている 2 作り過ぎないようにしている 3 残さないようにしている 4 特に気をつけていない 5 その他（ ）	・実践テーマとなっている食べ物を無駄にしないことについて状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。
幼児・小学生の保護者…3問	12	あなた（保護者）は農産物を購入する際、地場産のものを購入しているか 1 できる限りそうしている 2 たまにそうしている 3 こだわらない	・実践テーマとなっている農業や農産物への興味・関心の状況を把握する調査項目である。
	13	あなた（保護者）が食事の際に気をつけているマナーは何 1 食事のあいさつ 2 箸の持ち方・使い方 3 食器を持って食べる 4 食器の配置 5 食べ物を残さない 6 食事中にはほかの事をしない 7 肘をつかない 8 その他（ ）	・実践テーマとなっている食のマナーについて把握する項目である。
	14	あなた（保護者）は食べ残しや食品の廃棄に気をつけているか 1 買いすぎないようにしている 2 作り過ぎないようにしている 3 残さないようにしている 4 特に気をつけていない 5 その他（ ）	・実践テーマとなっている食べ物を無駄にしないことについて状況を把握する項目である。 ・成人の実践目標にもなっている項目なので中学・高校生においても把握する。

の巻物



ミヤリーも挑戦してみる!

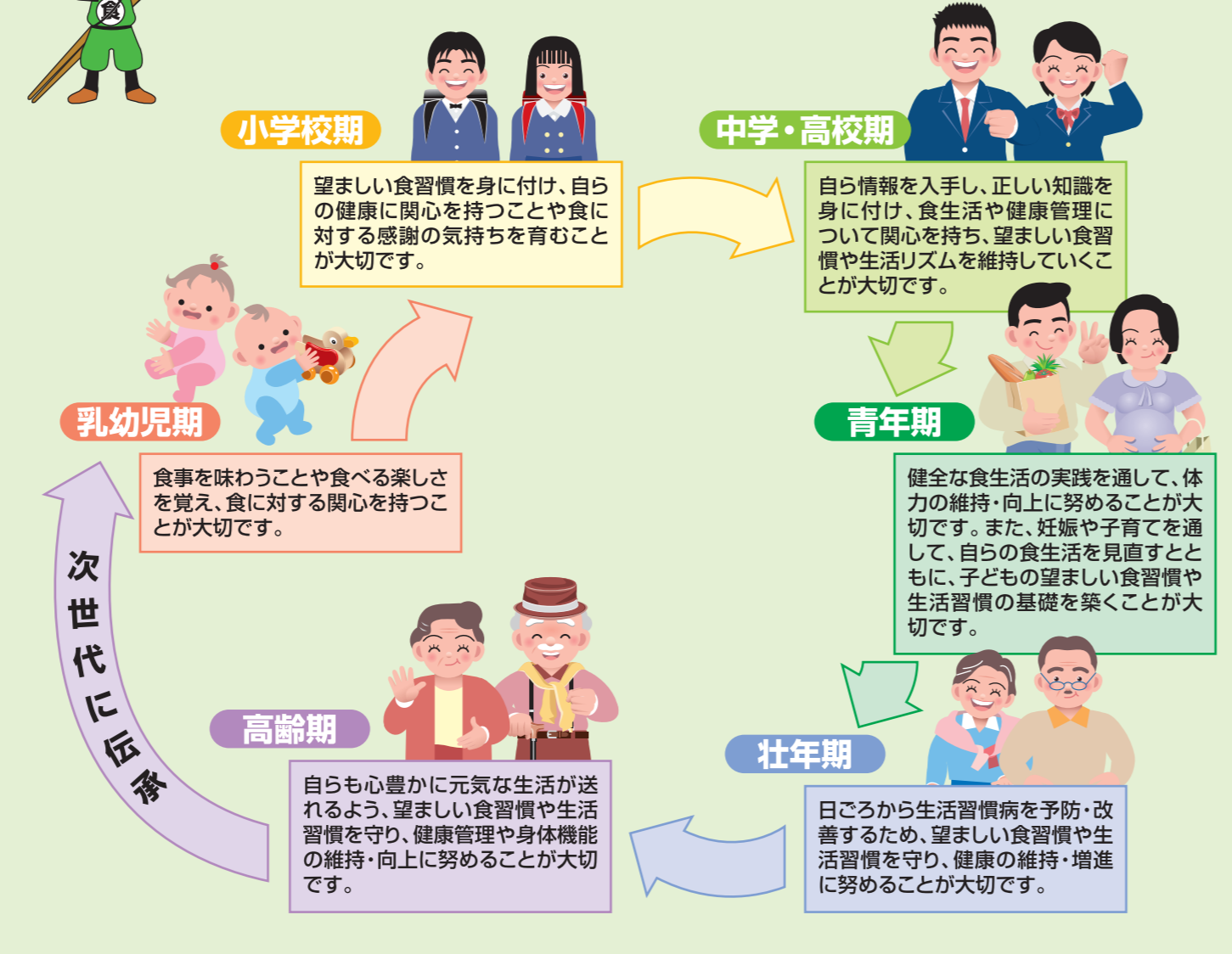
- ⑦ よく噛んで食べるように心がけていますか?
- ⑧ 農業や地場農産物に興味や関心を持っていますか?
- ⑨ 食べ残しや作り過ぎを考えて、食べ物を無駄にしないように気を付けていますか?
- ⑩ 食事のマナーに気を付けて食事をしていますか?
- ⑪ 「しもつかれ」などの郷土料理や「おせち料理」などの伝統料理を、食べたり作ったりする機会がありますか?
- ⑫ 食品の安全性に関する正しい知識を身に付けようとしていますか?

何個チェックが付きましたか?
チェックが付かなかったところは、今後の生活で意識して、付いたところはこれからもそのまま!

上級食育忍者 9~12個	中級食育忍者 5~8個	初級食育忍者 0~4個
------------------------	-----------------------	-----------------------

もっと食育のことを知りたかったら、巻物を広げてみよう!!

あなたの年齢に応じた食育に取り組もう!



宇都宮で広げよう!食育の環

家庭、学校、地域、企業、行政など、みんなで協力!みんなで食育!



問い合わせ先
〒321-0974 宇都宮市竹林町972
宇都宮市保健福祉部 保健所健康増進課
TEL: 028-626-1126 FAX: 028-627-9244
e-mail: u19070500@city.utsunomiya.tochigi.jp

食卓も愉快だ 宇都宮 UTSUNOMIYA

発行 宇都宮市食育推進会議・宇都宮市

発行年月日 2014年1月17日(発行部数25,000部)

食丸くんの食育教室

特集

食育忍者度チェック
マンガでわかる食育
年齢に応じた食育に取り組もう
宇都宮で広げよう!食育の環



第2次宇都宮市食育推進計画ガイドブック ~美味しく楽しく、からだも健康に~

食育秘伝



今あなたは、どんな「食育忍者」?
食育忍者度チェックに挑戦してみよう!!

- ### 食育忍者度チェック
- ① 食育に興味や関心がありますか?
 - ② 毎日、朝ごはんを食べていますか?
 - ③ 自身の適正体重を知り、維持していますか?
 - ④ 栄養バランスの良い食事を心がけていますか?
 - ⑤ メタボリックシンドロームの予防や改善に取り組んでいますか?
 - ⑥ 家族や友人と一緒に食事をしていますか?

※1 「適正体重」とは
統計的に病気にかかりにくいといわれている体重で、「身長(m)×身長(m)×22」で、求めることができます。
例)身長170.0cmの人の適正体重は、63kg[1.7(m)×1.7(m)×22]

※2 「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)」とは
内臓脂肪の蓄積「へその位置の周囲が男性85cm、女性90cm以上」に加えて、高血糖、脂質異常、高血圧のうち、2つ以上をあわせもった状態をいいます。

チェックリストの項目は、第2次宇都宮市食育推進計画において、みなさん一人ひとりが取り組む行動の目標です。



「忍者食丸くん」とは…
「忍者食丸くん」は、宇都宮市民の食育を陰から見守り、応援してくれるキャラクターです。
食を大切に作る心や環境面への配慮から、背中に大きなマイ箸を背負い、物を大切にすることを伝えます。
「忍者食丸くん」は、正しい食育の取り組みをしたみんなに〇(まる)をつけ、ほめてくれます。名前の食丸は「食育は〇(まる)だよ」といった意味もあります。

基本目標1

「毎日きちんと朝ごはんを食べます」の巻



心と体を健康に保つため、規則正しい生活を心がけ、毎日朝ごはんをしっかりと食べて、充実した1日を過ごしましょう。

実践目標	現状値	目標値(H28)
朝ごはんを毎日食べる人の割合	(幼児)	93.8% 100%
	(小学6年生)	95.8% 100%
	(中学3年生)	93.3% 100%
	(高校生)	85.2% 100%
	(20代)	57.8% 85.0%以上
	(30代)	76.7% 85.0%以上

早寝早起きで、朝ごはんをしっかりと食べよう!

H24朝食標語コンクール最優秀賞 出水 穂香さんの作品

「いただきます」 ニッコリみんなで 朝ごはん

第2次宇都宮市食育推進計画の基本理念

食の大切さを理解し、食に対する感謝の気持ちを深め、心身の健康と豊かな人間性を育み、人間力の向上を図る。

※「人間力」とは、体力・知力・感性・対人関係力など、自立したひとりの人間として力強く生きていくための総合的な能力をいいます。

基本目標2

「バランスのとれた食事を楽しく食べます」の巻



心と体を健康に保つため、栄養のバランスが良い食事を、家族や友人と食卓を囲み、一緒に楽しく食べましょう。

実践目標	現状値	目標値(H28)
肥満の人の割合	(20~60代男性)	26.7% 17.0%以下
	(40~60代女性)	15.4% 減らす
※食事バランスガイド等を参考に食生活を実践する人の割合	36.2%	60.0%以上
メタボリックシンドロームの予防や改善のための行動を実践している人の割合	24.4%	50.0%以上
朝食または夕食を毎日家族と一緒に食べる幼児・小学生の割合	90.3%	100%
よく噛んで食べる人の割合	32.0%	80.0%以上

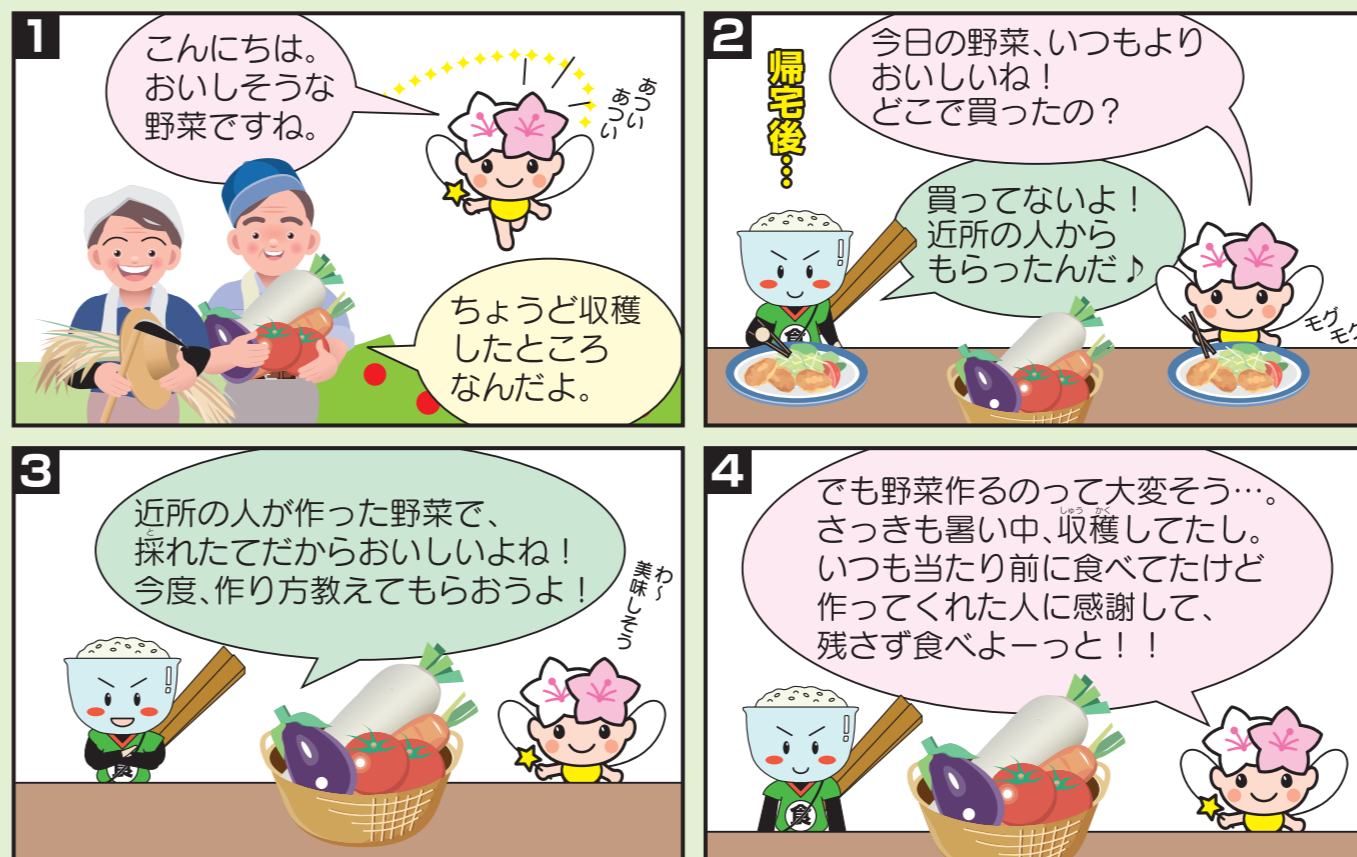
みんなでバランス良く、楽しく食べようね!

食事バランスガイド

※「食事バランスガイド」とは1日に「何を」「どれだけ」食べたらよいかの目安を分かりやすくコマのイラストで示したものです。

基本目標3

「地元でとれたものを無駄なく美味しく食べます」の巻



自然の恵みや食の大切さを理解し、食や食に関わる人に感謝の気持ちを持ち、「地産地消」や環境にも気をつけた食生活を送りましょう。

実践目標	現状値	目標値(H28)
地場農産物をできる限り購入している人の割合	41.8%	50.0%以上
食べ残しや食品の廃棄に関して気をつけている人の割合	91.3%	100%

宇都宮は農業が盛んだよ! どんな野菜がとれるか調べて、食べてみてね! 作ってくれる人に感謝して、無駄にしないようにね!

※「地産地消」とはその地域で生産されたものを、その地域で消費するという意味です。

基本目標4

「食に対する関心や感謝の気持ちを持ちます」の巻



食に関する様々な体験を通して、食の大切さを理解し、食への気持ちを深め、食に関する関心や知識を持とう!

実践目標	現状値	目標値(H28)
食育に関心がある人の割合	79.7%	90.0%以上
食事マナーに関心がある人の割合	(小学6年生)	81.2% 100%
	(中学3年生)	71.5% 100%
郷土料理や伝統料理に関心がある人の割合	64.7%	75.0%以上
食品の安全性に対して不安を感じている人の割合	83.5%	50.0%以下

郷土料理や伝統料理などの食文化にも興味を持ってね! 食の正しい情報を身につけるよう心がけ、マナーを守って楽しく食べよう!

※現状値は、平成23年度「食育に関する意識調査」、平成22年度「学習と生活についてのアンケート」結果によるものです。

